

地域の実情を踏まえた特色ある体験活動事業（特色化事業）
地域の自然を活用した野外教育プログラムの展開と効果
～「やり抜く力」及び「自己を見つめ他者につながる人間力」の育成を目指して～

報 告 書



 National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構

国立大洲青少年交流の家



国立三瓶青少年交流の家

地域の実情を踏まえた特色ある体験活動事業（特色化事業）

地域の自然を活用した野外教育プログラムの展開と効果

～「やり抜く力」及び「自己を見つめ他者とつながる人間力」の育成を目指して～

報 告 書

目 次

はじめに	1
特色化事業について	2
国立大洲青少年交流の家の 取組・資料	3
国立三瓶青少年交流の家の 取組・資料	36
専門家の分析（大洲・三瓶）	74
施設紹介（大洲・三瓶）	79
おわりに	80

は じ め に

国は第4期教育振興基本計画において、総括的な基本方針に「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げ、2040年以降の社会を展望したとき、教育こそが社会をけん引する駆動力の中核を担う営みであり、教育の果たす役割はますます大きくなっていると述べています。そして、青少年の体験活動の機会の充実のため、地域・企業・青少年教育団体・学校等の連携により、学校や青少年教育施設等における自然体験活動や集団宿泊体験活動など様々な体験活動の充実に取り組むとともに、指導者の資質の向上や青少年教育施設の効果的な利活用に取り組むこと等を通じた「豊かな心の育成」を目標の一つに掲げています。

また、経済協力開発機構（OECD）が実施している「教育とスキルの未来 2030」プロジェクトでは、教育制度の将来に向けたビジョンの中で、不確実で予測することが困難な未来を切り拓くためには、認知スキルやメタ認知スキル（批判的思考力、創造的思考力、学び方を学ぶ、自己調整等）、社会的及び情意的スキル（共感、自己効力感、協働性等）、実用的及び身体的スキル（新たな ICT 機器の利用等）を獲得し、活用できるようにすることが重要であると記しています。

このような中、国立青少年教育振興機構では、令和3年度から5年間の第4期中期目標に、「各施設が地域の実情に応じ、安全安心な体験活動や集団宿泊活動等を通して、青少年の体験活動に関する高い専門性を有する事業等、特色を生かした事業を実施する」ことを設定し、関係機関・団体や公立青少年教育施設、大学の研究者等と連携し、地域の実情を踏まえた実践研究事業を実施すること及び報告書を通して広く青少年教育関係者への発信を行うことで、青少年教育に関するモデル的事业の推進を図ることとしています。目標の達成に向けて、国立三瓶青少年交流の家では「三瓶版モデル型プラン開発事業」について、国立大洲青少年交流の家では「仲間と共にやり抜く力を伸ばすカヌー活動を中心としたプログラム展開」について実践研究を積み重ねてきました。プログラム開発及び実践等の過程においては、青少年の体験活動の機会を充実させ、指導者の育成に努めることによって、多くの青少年が持続可能な社会の創り手になり、ウェルビーイングの向上のために必要な社会的及び情意的スキル等を有効に獲得してほしいという願いが込められています。

本報告書においては、令和3年度から取り組んだプログラム開発及び研修支援におけるプログラムの提供の成果等を報告させていただきます。御一読いただき、多くの教育関係者に御活用いただくことで、青少年の健やかな成長と自立の推進に役立てていただきますようお願い申し上げます。

令和7年3月

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立大洲青少年交流の家

所長 中尾 治司

「地域の実情を踏まえた体験活動事業」（特色化事業）について

国立青少年教育振興機構では、より多くの青少年が施設の特徴を生かしたプログラムを体験できるようにすることを目的に活動プログラムの開発を行っている。全地方施設が「環境教育」や「防災教育」などの教育テーマを定め、複数施設が連携し、令和3年度から5年計画で取り組んでいる。

国立大洲青少年交流の家と国立三瓶青少年交流の家では、「野外教育」を教育テーマとして、地域の自然を活用した野外教育プログラムを通して、青少年の「やり抜く力」及び「自己を見つめ他者とつながる人間力」の育成を図ることを目的として取り組んだ。

国立大洲青少年交流の家では、メインプログラムであるカヌー活動を中心にクライミングやオリエンテーリングなどのプログラムを組み合わせ、青少年のやり抜く力を育成するためのより効果的なプログラム展開や指導の検討を行った。

国立三瓶青少年交流の家では、三瓶山登山とSAP（人間関係づくりプログラム）を中心に、「自己理解」と「他者理解」の育成支援に係る具体的方策の在り方について研究し、モデル型プランの開発を進めた。

※参考：令和6年度「地域の実情を踏まえた体験活動事業」（特色化事業）実施要綱から抜粋

1 趣旨

施設のプログラムを個性化・高度化・拠点化していくために、全地方施設が第4期中期目標・中期計画期間中に、研修支援において、より多くの施設利用者が各地方施設の特徴を生かした活動プログラムを実施できるよう、令和5年度までに教育事業と研修支援を連動させながら活動プログラムの開発を図ってきたところである。令和6年度は、令和5年度までの実績を活かし研修支援での提供を行う。また、グループごとに報告書の作成またはフォーラム等を開催し、成果の発信・普及を行うこととする。

2 事業内容

（1）報告書の作成またはフォーラム等の実施

取りまとめ施設を中心に、各グループにおいて、成果の発信・普及を行うため、報告書の作成またはフォーラム等を開催する。

各地方施設においては、研修支援における活動プログラムで活用できるよう学習方法をまとめ、教材や指導案等を作成し、研修支援として活動プログラムを提供する。

国立大洲青少年交流の家 特色化事業

「仲間と共にやり抜く力を伸ばすカヌー活動を中心としたプログラム展開」

I 趣旨

カヌー活動を中心とした野外教育プログラムを通して、困難なことにも積極的に挑戦する姿勢を養い、やり抜く力の育成を図るプログラムの開発を行う。

地域や関係機関と連携しながら特色あるプログラムを開発し、地域から理解・認知され、研修支援や公立青少年教育施設等で活用されることを目指す。

研修支援における有効な指導法などを整理し、研修支援プログラム（カヌー平水版）として提供するとともに、やり抜く力を高めていくためのプログラムを普及していく。

II 事業構想と概要

1 事業構想

(1) 1年目（令和3年度）

チャレンジカヌーツーリングの実施を通して、やり抜く力を伸ばすために必要な要素として、「協力」「コミュニケーション」「挑戦」「安全」「実践」「見つめる」の6つに着目し、約3kmのショート編（父橋～カヌー研修センター）を8回、約10kmのロング編（宇津橋～カヌー研修センター）を2回企画した。ダム放流や新型コロナウイルス感染症拡大のため、ショート編5回を実施した結果、コミュニケーションに関する項目が他と比べて低かったため、コミュニケーションの力を育てる事業展開等について検討する必要があるという課題が残った。

(2) 2年目（令和4年度）

1年目に引き続き、チャレンジカヌーツーリングの実施を通して取り組んだ。前年度からコースを一部変更して、約5kmのコース（父橋～緑地公園）を3回企画した。前年度の事業後のアンケート結果から「コミュニケーション力」における満足度が低いことが課題として挙がっていたため、当該年度は指導案を作成し、コミュニケーション力を高めるための指導法やプログラムを取り入れるよう工夫した。また、事業を通して参加者の変容を見取るために、新たに事前・事後（直後と1か月後）アンケートを作成し、事業実施による効果の検証を行った。調査の結果、事業に参加したことで「やり抜く力」が向上したが、前年度からの課題であったコミュニケーション力については、他の項目に比べて数値が低く、課題が残った。

(3) 3年目（令和5年度）

3年目は内容を変更し、研修支援で活用されること、前年度からの課題であった「コミュニケーション力」の育成を念頭にカヌーだけでなく既存のプログラムも組み合わせ実施した。さらに、指導の際に、コミュニケーション力を高めるための工夫を行った。また、事業を通して参加者の変容を見るために、前年度に引き続き、事前・事後（直後と1か月後）アンケートを作成し、事業実施による効果の検証を行った。調査の結果、昨年度同様事業に参加したことで「やり抜く力」が向上するとともに、コミュニケーション力についても他の項目に比べて、数値がやや低かったが、前年度に比べ大きく向上しており、当該年度に取り組んだプログラム及び指導上の工夫が有効であった。

(4) 4年目（令和6年度）

4年目は、研修支援で利用する学校に対して、これまでの成果を踏まえて作成した「カヌー指導におけるポジティブワード一覧表（試作案）」を活用してカヌー指導を行うとともに、担当教員に対するアンケート調査により、やり抜く力の効果を測定した。調査結果については、カヌー活動を行った学校団体の100%が児童生徒のやり抜く力が向上したと答えた。また、これまでの成果と当該年度の調査結果を掲載した速報版の報告を作成し、取組の普及及び野外教育関係者との意見交換を行った。これらを踏まえて、本報告書を作成する。

(5) 5年目（令和7年度）

5年目は、4年目に作成した報告書を活用し、本取組により開発したカヌー活動の指導法やプログラム展開により、青少年のやり抜く力が向上することについて、学校や関係団体に普及を図り、より多くの青少年が施設の特徴を生かしたプログラムを体験できるようにしていく予定である。

2 テーマ

「仲間と共にやり抜く力を伸ばす青少年の育成」

3 主催

国立大洲青少年交流の家

4 後援

愛媛県教育委員会、大洲市教育委員会

5 講師

愛媛大学 教育学部 教授 日野 克博 氏（令和6年4月1日から教育学部長）

III 研究仮説

地域コミュニティの弱体化や社会参加の喪失、自然体験・生活体験・社会奉仕体験の減少といった現代社会の状況で、自己肯定感の低下や耐性、自己調整力の不足、規範意識や人間関係形成力の低下や、協調性の不足など青少年の課題が発生している。

このような背景を踏まえ、国立大洲青少年交流の家のメインプログラムであるカヌー活動で得られる効果の中から、「協働力」「コミュニケーション力」「チャレンジ力」「安全対応力」「実践力」「省察力」に着目し、これらの力が高まることがやり抜く力の向上につながると研究仮説を設定した。

【研究仮説】

大洲の豊かな自然と清流肱川の環境資源を生かしたカヌー活動を中心とした体験活動に挑戦することで、上記の6つの力が向上し、青少年の仲間と共にやり抜く力が育まれるであろう。

IV 各年度事業の取組の実際

令和3年度

1 チャレンジカヌーツーリング

日帰り事業としてショート編を5回実施し、3kmのツーリングへの挑戦を通して、やり抜く力の育成を図った。参加者は、肱川の自然に触れながら、カヌー体験を楽しんでいた。ショート編3回は、雷雲の接近の恐れやダム放流のため中止、ロング編（10km）は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、中止となった。

2 事業の目的（ねらい）

初めて体験するカヌーツーリングを通して、困難なことにも積極的に挑戦する姿勢を養い、やり抜く力の育成を図る。また、肱川の自然のすばらしさにも触れることで、カヌー体験活動の普及を行う。

3 企画のポイント

国立大洲青少年交流の家のミッション「仲間と共にやり抜く力を伸ばす青少年の育成」のもと活動内容を企画し、やり抜く力を伸ばすのに必要な要素として、「協力」「コミュニケーション」「挑戦」「安全」「実践」「見つめる」の6つに着目することとした。さらに、当該年度はショート編を日帰りとして8回企画し、より大洲でのカヌー体験活動を普及できるようにした。また、ロング編のコースをショート編より上流の場所からスタートすることに変更し、困難な10kmのツーリングとした。

4 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

5 共 催 大洲市・大洲市教育委員会・大洲市カヌー協会

6 後 援 国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所・愛媛県教育委員会

7 期 日

【ショート編】

第1回：7月10日（土）＊雷雲の接近の恐れがあるため中止

第2回：7月11日（日）

第3回：7月17日（土）＊ダム放流のため中止

第4回：7月18日（日）＊ダム放流のため中止

第5回：7月24日（土）

第6回：7月25日（日）

第7回：7月31日（土）

第8回：8月1日（日）

【ロング編】

9月11日（土）～12日（日）＊「まん延防止等重点措置」の期間となったため、予備日に延期
予備日：9月18日（土）～19日（日）＊「感染対策期」の期間となったため中止

8 場 所

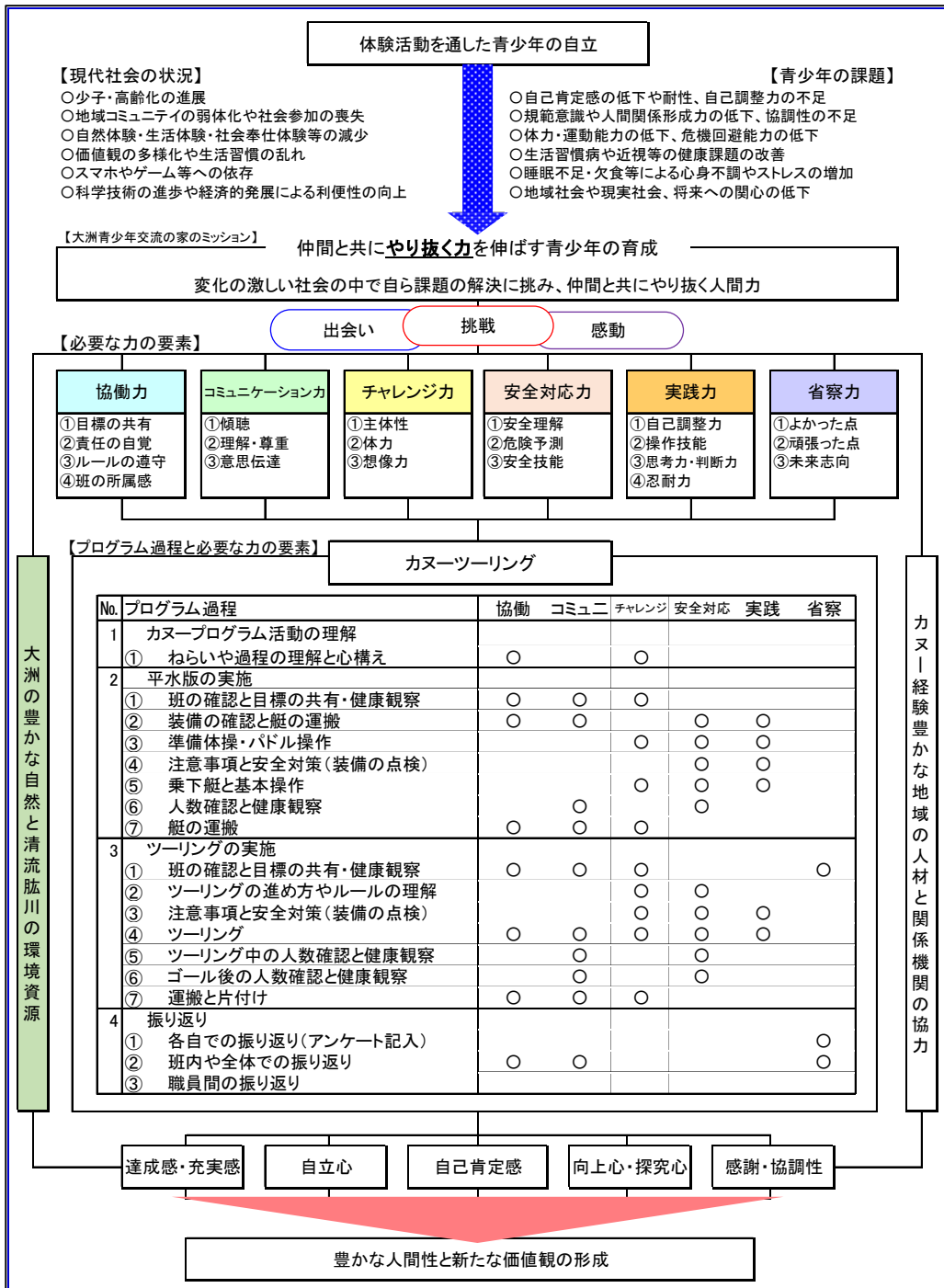
【ショート編】 大洲市菅田町父橋～大洲市柚木 約3km

【ロング編】 大洲市菅田町宇津橋～大洲市柚木 約10km



9 対 象 小学5・6年生親子、中学生、高校生、一般

10 事業構成表 やり抜く力の育成に焦点を当てた事業を展開できるように、事業構成表を作成した。



11 応募者数 (参加者数)

【ショート編】各回定員 20 名

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 第1回：応募者数 135 名 *中止 | 第2回：応募者数 120 名 (参加者数 21 名) |
| 第3回：応募者数 105 名 *中止 | 第4回：応募者数 138 名 *中止 |
| 第5回：応募者数 94 名 (参加者数 20 名) | 第6回：応募者数 157 名 (参加者数 20 名) |
| 第7回：応募者数 102 名 (参加者数 20 名) | 第8回：応募者数 147 名 (参加者数 20 名) |

【ロング編】定員 50 名 応募者数 71 名 *中止

12 参加費

- 【ショート編】980 円 【ロング編】小学5・6年生 2,520 円 中学生以上 2,550 円

13 講 師

大塚製薬工場 小早川裕之 氏（熱中症予防対策講義）・大洲市カヌー協会会員・国立大洲青少年交流の家職員

14 日 程

【ショート編】	【ロング編】*中止	
9:30 開会式・移動	13:30 開会式・移動	6:30 起床・清掃
10:00 カヌー体験	14:10 カヌー体験・移動	7:00 朝食・退所点検・移動
11:45 昼食・休憩・移動	17:00 夕食・入浴	9:20 カヌーツーリング
13:00 カヌーツーリング	19:00 熱中症予防対策講義	12:30 昼食
15:15 閉会式・移動	20:00 自由時間	13:00 閉会式・移動
16:00 更衣・解散	22:30 就寝	14:00 更衣・解散

* ロング編中止のため、熱中症予防対策講義は、9月28日（火）に職員研修として実施

15 活動内容

(1) 開会式と導入（目標設定・アイスブレイク等）

各回において、やり抜く力を伸ばすのに必要な要素として考えた6つの視点について説明した。さらに、この6つの視点について活動後にアンケートをとることを伝え、やり抜く力の育成に関して明確な目的意識をもって取り組めるようにした。

開会式後には、カヌーツーリングの班に分かれて自己紹介を行い、今回のチャレンジカヌーツーリングでがんばること（個人の目標）も発表し、それを班のメンバーで共有し、お互いが声をかけながら助け合い、それぞれの目標を達成できるようにした。

【やり抜く力を伸ばすのに必要な力の要素】	
協力	ルールを守って、バディや班のメンバーと協力する。
コミュニケーション	バディや班のメンバーを上げましたり、いいところやがんばっているところを伝えたりする。
挑戦	「カヌーを上手にこぎたい」という気持ちをもって、積極的に取り組む。
安全	「自分の命は自分で守る」ということを意識して、安全に気を付けて取り組む。
実践	カヌーに乗れる（カヌーを操作できる）ようになる。
見つめる	チャレンジカヌーツーリングを通して、最後までがんばれたかどうか振り返る。



(2) カヌー体験 講師：国立大洲青少年交流の家職員

バスで艇庫に移動し、親子で協力しながらカヌーを運んだ。一人1艇のカヌーを使用するので、艇庫から河原までを2往復する親子が大半であり、小学生や女性の保護者には大変だったようだ。その後、河原でパドルの使い方の練習を行った。対面にして練習することで、きちんとできているかどうかバディで確認するようにした。また、班のメンバーにも目を向けるように声をかけ、少しずつ班の仲間意識を高められるようにした。リバーサインを確認し、正しくライフジャケットを着けた後、基本的な操作に慣れるように流れが穏やかな場所で1時間余り、カヌー体験を行った。

(3) カヌーツーリング 講師：大洲市カヌー協会会員

父橋に移動し、班で声をかけ合ってゴールを目指すことを伝え、カヌー協会の方にサポートしていただきながら、3kmのツーリングを開始した。参加者は、流れに負けないように力強いパドリングで瀬（流れが激しい所）を抜けたり、水辺の自然や景観について会話をしたりして、ツーリングを楽しんでいた。



(4) 閉会式

ツーリング後、アンケートの記入、班での振り返りを行った。各班での振り返りでは、個人の目標が達成できたかどうか、一人ずつ発表する時間を設けた。参加者同士、お互いの発表に真剣に耳を傾け、「がんばったこと」を全員で共有できる時間となった。また、カヌー協会の方にも各班の振り返りに加わっていただき、参加者の発表を聞いていただいたり、カヌーの魅力を話していただいたりした。



16 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

【事業満足度】（大人 53名 子供 48名）

*満足：93.0% *やや満足：6.0% *やや不満：1.0% *不満：0%

- カヌーを運ぶのは大変でしたが、片付けまでやりきることを親子で学ぶことができました。
- 初めてのカヌーだったけれど、意外にうまくできて、すごく楽しかったです。
- とても疲れましたが、達成感があります。

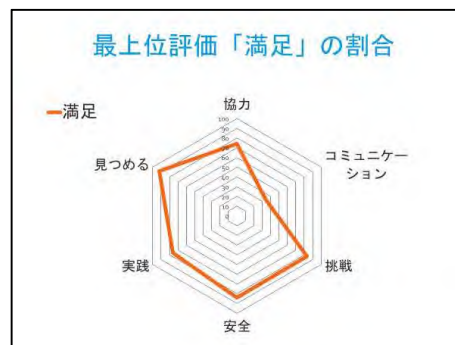
17 事業の成果

ショート編8回、いずれの回においても定員を大きく上回る申込だった。日帰り事業としたことや、午前中にカヌーの基本的な操作を体験し、午後からはツーリングに挑戦するというプログラム構成が参加しやすかったのではないかとと思われる。また、ロング編への申込は例年に比べて多かった。ショート編の回数を増やしたことでロング編の受講資格がある人が増えたこと、ツーリングコースをショート編よりもさらに上流に変更しツーリングのイメージをしやすくしたことが、申込人数の増加につながったのではないかとと思われる。

参加者の安全・安心を確保して体験活動を実施し、肱川の自然のすばらしさやカヌー体験活動の普及を行うことができた。

18 事業の課題

やり抜く力の構成要素に着目したアンケート結果（ショート編5回分 最上位評価「満足」の割合のレーダーチャート）では、コミュニケーションに関する項目が他と比べて低かった。コロナ禍での実施のため、ソーシャルディスタンスの確保や家族間の交流をあえて充実させなかったことがその要因の一部と考えられるが、コミュニケーションの力を育てる事業展開等について検討する必要がある。また、やり抜く力の構成要素や事業展開等について、専門家や有識者等にも指導していただきながら、より効果的な企画となるようにしていきたい。様々な団体や関係機関との協力・連携を図りながら、チャレンジカヌーツーリング事業の発展を目指し、カヌーを通じた体験活動の普及・啓発に努めていきたい。



(担当：主任企画指導専門職 村中 昭広)

令和4年度

1 チャレンジカヌーツーリング

国立大洲青少年交流の家において中心的なプログラムであるカヌーを通じて、教育テーマである「やり抜く力の育成」を目指した教育事業である。今年度は昨年度からコースを一部変更して3回実施するとともに、愛媛大学教育学部の日野教授に講師を依頼し、効果的なプログラムや指導法について検証を行った。



2 事業の目的（ねらい）

初めて体験するカヌーツーリングを通して、困難なことにも積極的に挑戦する姿勢を養い、やり抜く力の育成を図る。また、肱川流域の自然や歴史的文化遺産に触れることで、郷土を愛する心を育成する。

3 企画のポイント

前年度の事業後のアンケート結果から「コミュニケーション力」における満足度が低いことが課題として挙がっていた。そこで、当該年度は講師の日野教授に助言をいただきながら指導案を作成し、コミュニケーション力を高めるための指導法やプログラムを取り入れるよう工夫した。また、事業を通して参加者の変容を見取るために、新たに事前・事後（直後と1か月後）アンケートを作成し、事業実施による効果の検証を行った。さらに、ゴール地点を変更し、臥龍山荘や大洲城付近を通るコースに設定することで、肱川流域の自然だけでなく、歴史的文化遺産にも触れられるコースとした。

- | | |
|---------|--|
| 4 主 催 | 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家 |
| 5 共 催 | 大洲市・大洲市教育委員会・大洲市カヌー協会 |
| 6 後 援 | 国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所・愛媛県教育委員会 |
| 7 期 日 | 第1回：7月23日（土） 第2回：8月7日（日）
第3回：8月27日（土） 予備日：9月3日（土）*予備日は実施せず。 |
| 8 場 所 | 大洲市菅田町父橋～大洲市中村緑地公園付近 約5km |
| 9 対 象 | 小学5～6年生とその保護者 |
| 10 参加者数 | (応募者数)
第1回：13組26名（34組71名） 第2回：17組39名（58組129名）
第3回：14組29名（40組84名） |
| 11 参加費 | 1,000円 |
| 12 講 師 | 愛媛大学教育学部 教授 日野 克博 氏
大洲市カヌー協会会員
国立大洲青少年交流の家職員 |

13 指導案

チャレンジカヌーツーリング 指導案																																															
<p>1 日時 第1回：7月23日(土) 第2回：8月7日(日) 第3回：8月27日(土) 予備日：9月3日(土)</p> <p>2 場所 午前：交流の家→艇庫→艇庫前河原 午後：艇庫→父橋→緑地公園→交流の家</p> <p>3 ねらい 初めて体験するカヌーツーリングを通して、積極的に挑戦し、やり抜くこととする力の育成を図る。</p> <p>4 準備物 指導者：艇庫鍵、無線機、計測グッズ、AED、救急バッグ、クーラーボックス (OS1、氷、氷嚢) 地図、ガムテープ、マジック、ライフジャケット、ヘルメット、カヌー、パドル 緊急車両に乗せておくものとして、AED、救急バッグ、クーラーボックス、担架、毛布</p> <p>5 展開</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動</th> <th>時間</th> <th>○指導者の声掛け ●子ども予想される反応</th> <th>留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 受付・更衣</td> <td>9:00</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 開会式 (1)所長挨拶 (2)スタッフの紹介 (3)やり抜く力の説明 (4)日程の説明</td> <td>9:30</td> <td>○「やり抜く力」について説明します。 ○最後のゴール(片付含む)までがんばろう！ ●事業への期待が高まる。</td> <td>・小学生でも分かるように説明する。 ・子供たちの気持ちを高めるような演出(例えば緊張でカヌーに乗艇している参加者の写真の提示等)をする。 ・艇の中で意見が出づらいうであれば、職員が子供からがんばりたいことを聞き出し、艇の目標とする。</td> </tr> <tr> <td>(5)アイスブレイク</td> <td></td> <td>○自分の好きなものをお題にして、キャンプネームも含めて自己紹介をする。 ●恥ずかしがりながら自己紹介をする。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(6)班の目標設定</td> <td></td> <td>○班のみんなが最後のゴール(片付含む)までやり抜けるよう、班の目標を決めよう。 ●仕切ることができる子供が班内にいなければ、なかなか意見がでない。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(バスで艇庫へ移動)</td> <td>10:15</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 平水体験 (1)準備・運搬</td> <td>10:30</td> <td>○班で協力してカヌーを運ぼう。 ●重いカヌーを途中休みながらも懸命に運ぶ。 ○パドル操作の仕方について、ペアで教え合おう。 ●指導者から教わったことを真剣に相手に伝える。</td> <td>・班員のカヌーを替で協力して運ぶよう職員が助ます(必要に応じて職員や船員も運搬に手を貸す)。 ・熱中症対策として、足音や手音を木に響かせせる。</td> </tr> <tr> <td>(2)平水体験 ・パドル練習</td> <td>11:00</td> <td>○ライフジャケットとヘルメットをペアで確認しよう。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・装備の確認</td> <td>11:20</td> <td>●職員に教えてもらいながらペアで確認する。</td> <td>・職員が最終点検を行う。</td> </tr> <tr> <td>・乗艇</td> <td>11:30</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・隊列確認</td> <td>11:45</td> <td>○2列⇄1列になろう。 ●慣れないながらも隊列変更を試み、徐々に隊列</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				活動	時間	○指導者の声掛け ●子ども予想される反応	留意点	1 受付・更衣	9:00			2 開会式 (1)所長挨拶 (2)スタッフの紹介 (3)やり抜く力の説明 (4)日程の説明	9:30	○「やり抜く力」について説明します。 ○最後のゴール(片付含む)までがんばろう！ ●事業への期待が高まる。	・小学生でも分かるように説明する。 ・子供たちの気持ちを高めるような演出(例えば緊張でカヌーに乗艇している参加者の写真の提示等)をする。 ・艇の中で意見が出づらいうであれば、職員が子供からがんばりたいことを聞き出し、艇の目標とする。	(5)アイスブレイク		○自分の好きなものをお題にして、キャンプネームも含めて自己紹介をする。 ●恥ずかしがりながら自己紹介をする。		(6)班の目標設定		○班のみんなが最後のゴール(片付含む)までやり抜けるよう、班の目標を決めよう。 ●仕切ることができる子供が班内にいなければ、なかなか意見がでない。		(バスで艇庫へ移動)	10:15			3 平水体験 (1)準備・運搬	10:30	○班で協力してカヌーを運ぼう。 ●重いカヌーを途中休みながらも懸命に運ぶ。 ○パドル操作の仕方について、ペアで教え合おう。 ●指導者から教わったことを真剣に相手に伝える。	・班員のカヌーを替で協力して運ぶよう職員が助ます(必要に応じて職員や船員も運搬に手を貸す)。 ・熱中症対策として、足音や手音を木に響かせせる。	(2)平水体験 ・パドル練習	11:00	○ライフジャケットとヘルメットをペアで確認しよう。		・装備の確認	11:20	●職員に教えてもらいながらペアで確認する。	・職員が最終点検を行う。	・乗艇	11:30			・隊列確認	11:45	○2列⇄1列になろう。 ●慣れないながらも隊列変更を試み、徐々に隊列	
活動	時間	○指導者の声掛け ●子ども予想される反応	留意点																																												
1 受付・更衣	9:00																																														
2 開会式 (1)所長挨拶 (2)スタッフの紹介 (3)やり抜く力の説明 (4)日程の説明	9:30	○「やり抜く力」について説明します。 ○最後のゴール(片付含む)までがんばろう！ ●事業への期待が高まる。	・小学生でも分かるように説明する。 ・子供たちの気持ちを高めるような演出(例えば緊張でカヌーに乗艇している参加者の写真の提示等)をする。 ・艇の中で意見が出づらいうであれば、職員が子供からがんばりたいことを聞き出し、艇の目標とする。																																												
(5)アイスブレイク		○自分の好きなものをお題にして、キャンプネームも含めて自己紹介をする。 ●恥ずかしがりながら自己紹介をする。																																													
(6)班の目標設定		○班のみんなが最後のゴール(片付含む)までやり抜けるよう、班の目標を決めよう。 ●仕切ることができる子供が班内にいなければ、なかなか意見がでない。																																													
(バスで艇庫へ移動)	10:15																																														
3 平水体験 (1)準備・運搬	10:30	○班で協力してカヌーを運ぼう。 ●重いカヌーを途中休みながらも懸命に運ぶ。 ○パドル操作の仕方について、ペアで教え合おう。 ●指導者から教わったことを真剣に相手に伝える。	・班員のカヌーを替で協力して運ぶよう職員が助ます(必要に応じて職員や船員も運搬に手を貸す)。 ・熱中症対策として、足音や手音を木に響かせせる。																																												
(2)平水体験 ・パドル練習	11:00	○ライフジャケットとヘルメットをペアで確認しよう。																																													
・装備の確認	11:20	●職員に教えてもらいながらペアで確認する。	・職員が最終点検を行う。																																												
・乗艇	11:30																																														
・隊列確認	11:45	○2列⇄1列になろう。 ●慣れないながらも隊列変更を試み、徐々に隊列																																													
<p>・カヌー運搬</p> <p>・振り返り・午後の日程確認</p> <p>(昼食)</p> <p>(バスで父橋へ移動)</p> <p>4 ツーリング体験 (1)準備・運搬 (2)ツーリング開始</p> <p>(休憩)</p> <p>(3)シットイン・スタンドアップカヌーについて説明する。</p> <p>(再出発)</p> <p>(4)班でシットイン・スタンドアップカヌーに挑戦してみよう。 ●おそろおそろ挑戦する。</p> <p>(5)緑地公園着</p> <p>(6)片付</p> <p>(バスで移動)</p> <p>5 閉会式</p> <p>6 更衣・解散</p>	<p>12:10</p> <p>12:30</p> <p>13:30</p> <p>13:45</p> <p>14:00</p> <p>14:30</p> <p>14:45</p> <p>15:15</p> <p>16:00</p> <p>16:15</p> <p>16:30</p> <p>16:45</p> <p>17:00</p>	<p>を整えて移動できるようになる。</p> <p>○班で協力してカヌーを運ぼう。 ●重いカヌーを途中休みながらも懸命に運ぶ。 ○午前のカヌーを振り返ってみてどうだった？ ●運ぶのは大変だったけど、楽しかった。</p> <p>○班で協力してカヌーを運ぼう。 ●重いカヌーを途中休みながらも懸命に運ぶ。 ○ゴールを目指してがんばるぞー！！ ●「えい、えい、おー！！」</p> <p>鶴岡プラザ前でトイレ休憩。</p> <p>○シットイン・スタンドアップカヌーについて説明するよ。だれが座って、誰が立つ？ ●戸惑いながらも、班で立つ人、座る人を決める。</p> <p>○班でシットイン・スタンドアップカヌーに挑戦してみよう。 ●おそろおそろ挑戦する。</p> <p>○大洲城が見えてきたよ。もう少し！ ●表情が明るくなる。</p> <p>○最後まで皆で協力して片付けよう。 ●疲れているが、協力してカヌーをトラックに積み込む。</p> <p>○振り返りをしよう。</p>	<p>・職員は子供達の奮闘技術を記録する。</p> <p>・艇の前での待機、入るタイミング、艇の途中でのパドルング、抜けた後の待機等について知らせておく。 ・ツーリングに向けてやる気を高める。</p> <p>・トイレ：船艇プラザ</p> <p>・如法寺河原から臥龍山荘をバックに写真を撮る。 ・成功したら、しっかりほめる。</p> <p>・艇川橋の下をくぐるとゴールであることを伝える。</p> <p>・最後までみんなで協力して片付けようスタッフは声掛けをする。</p> <p>・艇で閉になって感想を発表し合い、拍手で互いの頑張りを認め合う。</p>																																												
<p>研究の視点</p>	<p>・コミュニケーションの場の設定や職員の働きかけは適切か。 ・コミュニケーションの場の設定や職員の働きかけがやり抜く力の育成に効果があったか。</p>	<p>【研究の仮説(案)】コミュニケーションの場の設定や職員の働きかけを適切に行えば、やり抜く力の育成につながるであろう。</p>																																													

14 日程

9:00 受付・更衣	12:00 昼食・休憩・移動(バス)
9:30 開会式・アイスブレイキング (仲間づくり)・移動(バス)	13:00 ツーリング(約5Km)
10:30 カヌー体験	16:30 移動(バス)・閉会式
	17:00 更衣・解散

15 活動内容

(1) 開会式と導入(目標設定・アイスブレイク等)

各回において、やり抜く力を伸ばすのに必要な要素として6つの力について説明した。さらに、実施の直前と直後、1か月後にアンケートをとることを参加者に伝え、協力を呼び掛けた。

開会式後は、班ごとに自己紹介やアイスブレイクを行って緊張をほぐすとともに、バディや班で頑張ること(目標)を共有し合うことで、コミュニケーションを取り合う場を設定した。また、第1回の反省を踏まえ、第2回・第3回では目標を紙に書いて掲示板に貼ることで、目標を可視化し、目的意識をしっかりと持てるようにした。

(2) カヌー体験 講師：国立大洲青少年交流の家職員

バスで艇庫に移動し、バディで協力しながらカヌーを運んだ。一人一艇のカヌーを使用するので、各バディが艇庫から河原までを2往復した。小学生や女性の保護者にとって、およそ20Kgの重さのカヌーを運ぶのは大変だったと思われる。しかし、やり抜く力を育成する上で、仲間(バディや班員)で協力して準備や片付けを行うことは大切であると考え、職員もで



きる限り運搬を手伝わずに、頑張りを認める声掛けを積極的に行った。

カヌーの運搬が終わると、河原でライフジャケットを着用し、熱中症予防のために手首・足首を水につけたり水に浮かんだりした。その後、パドル練習を行い、カヌーの乗り降りや転覆した際の対処方法について説明した。ライフジャケットの確認やパドル練習でも、親子ではなくできるだけバディで行うようにし、コミュニケーションを取り合う機会を確保するようにした。

リバーサインの確認後、基本的な操作に慣れるように流れが穏やかな場所ですら1時間余り、カヌー体験を行った。多くの参加者がすぐに慣れて、楽しそうにカヌーに乗る姿が見られた。



(3) 午前中の振り返り 講師：国立大洲青少年交流の家職員

昼食前に、班ごとに午前中の活動を振り返り、バディで互いの頑張りを認め合ったり、個人の目標を修正したりした。参加者からは、「思っていたよりもカヌーに上手に乗ることができてよかった。」「午後からはもっと頑張りたい。」といった前向きな声が聞かれた。

(4) カヌーツーリング 講師：大洲市カヌー協会会員

父橋に移動し、体調やライフジャケット等の確認を行った後、班で声を掛け合って気持ちを高めた。参加者は、瀬（流れが激しい所）にさしかかると力強くパドルを漕ぎ、瀬を抜けると歓声を上げたり笑顔を見せたりしながら、カヌーの魅力を感じる存分に満喫している様子であった。

臥龍山荘の下を通過するとコースは終盤にさしかかり、序盤に比べて流れが穏やかになるため、疲れが見え始める参加者が多かった。しかし、眼前に大洲城が見えてくると参加者から歓声が上がったり親子で写真を撮ったりして、再び参加者に笑顔が戻ってきた。スタッフも、「肱川橋をくぐるとゴールだよ。もう少しだから、頑張ろう。」と声を掛け、全員がゴールできるよう参加者を励ました。

ゴール後には、大洲城をバックに班で写真を撮り、バディで協力して片付けを行った。参加者は疲れていたが、最後まで協力してカヌーを片付ける姿が見られた。



(5) 閉会式

ツーリング後、交流の家に戻って班での振り返りとアンケートの記入を行った。各班での振り返りでは、掲示板も活用しながら、個人の目標が達成できたかどうか、一人ずつ発表する時間を設けた。参加者同士、お互いの発表に真剣に耳を傾け、「がんばったこと」を全員で共有できる時間となった。アンケート提出後に完漕証を渡したが、ほとんどの参加者が満足感に溢れた表情で受け取っていたのが印象的だった。

16 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

【事業満足度】（大人 49 名 子供 45 名）

*満足：89.0% *やや満足：10.0% *やや不満：0.0% *不満：1.0%

【直後の感想】

- 最初は不安だったけれど、意外と簡単だった。他のことにも挑戦したい。（子供）
- 充実感がある。子供の成長を見られてよかった。また参加したい。（保護者）

【1か月後の感想】

- 友達に優しくしたり協力したりできるようになった。最後まで何でもやるようになった。（子供）
- 弱音を吐く回数が減った。家庭学習を最後までやるようになった。手伝いが増えた。（保護者）

17 事業の成果

今年度は、やり抜く力の向上を調査するため、日野氏の助言によりGrit調査*を行った。表1では、Grit調査の質問項目1から4において、実施直後の数値（3回の平均値）が実施直前よりも上がっている。事業に参加したことで「やり抜く力」が向上したものと考えられる。なお、より客観的なデータの収集を目的として、保護者にも同様のアンケートをとった。保護者の結果も併せて以下に示す。

*藤原寿幸氏・河村茂雄氏の「小学生のGrit(やり抜く力)とパーソナリティとの関連」（日本教育心理学会第62回総会発表論文集（2020年））を参考にした。

表1 Grit調査 質問1~4の子供と保護者の回答変化（平均）	子供			保護者		
	直前	直後	変容	直前	直後	変容
1. 自分（子供）はがんばりやである。	2.91	3.14	0.23	3.22	3.26	0.04
2. 自分（子供）はどんなことにも一生けん命に取り組む。	3.13	3.16	0.03	3.08	3.19	0.11
3. 自分（子供）はむずかしいことやつらいことにも負けない。	2.64	3.07	0.43	2.85	2.98	0.13
4. 自分（子供）は始めたことはどんなことでも最後までやる。	2.82	3.16	0.34	2.64	2.92	0.28

また、第1回の実施後に振り返りを行い、日野氏より、「親子ではなく子供（バディ）同士の関係性を高めるための工夫が必要」との指摘をいただいた。そこで、第2回と第3回では、バディ同士の自己紹介やアイスブレイク、掛け声の練習等に十分な時間をとり、コミュニケーション力を高めるための手立てとした。それにより、下の表2が示すように、第1回と比べて第2回・第3回はコミュニケーション力が向上していることが分かった。参加者からも、「バディと仲良くなれてよかった」「バディに『だいじょうぶ？』とか声をかけられた」といった感想をいただいた。以上のことから、事業実施による一定の効果はあったと考察できる。

表2 コミュニケーション力についての回答

第1回（7/23）		第2回（8/7）		第3回（8/27）		第1回と第2・第3回平均の差	
子供	保護者	子供	保護者	子供	保護者	子供	保護者
2.38	2.62	2.75	3.11	2.71	3.14	0.35	0.51

18 事業の課題

表3 6つの構成要素に関する質問への回答（3回の平均）

	協働力	コミュニケーション力	チャレンジ力	安全対応力	実践力	省察力
子供	3.58	2.63	3.81	3.56	3.93	3.47
保護者	3.51	2.95	3.81	3.17	3.87	3.38

昨年度からの課題であったコミュニケーション力を高めるための指導法やプログラムの開発を目指して取り組んだところ、上述のとおり一定の成果はあったが、表3が示すとおり、コミュニケーション力については他の項目に比べて数値が低かった。その要因の一つとして、バディ同士の相性だけでなく、技能や体力の差によって、ツーリングの際にコミュニケーションがとりづらかったことが考えられる。

本事業の目的は、関係機関と連携しながら特色あるプログラムを開発することで、地域から理解・認知され、研修支援や公立青少年教育施設等で活用されることを目指している。今後は、日野氏や他施設との情報交換を進め、2年間の成果と課題を踏まえて、研修支援でより多くの団体が活用できる半日プログラムの構築、カヌーだけでなく既存のプログラムも組み合わせた展開を検討するなどして、やり抜く力を高めていくためのよりよいプログラムになるよう努めていきたい。

（担当：主任企画指導専門職 徳田 義実）

令和5年度

1 OZUチャレンジプログラム

国立大洲青少年交流の家において中心的なプログラムであるカヌーと既存のプログラムを合わせて、教育テーマである「やり抜く力の育成」を目指した教育事業である。今年度はカヌーとそれぞれの回でクライミング、オリエンテーリング、レクリエーションを実施するとともに、愛媛大学教育学部の日野教授に講師を依頼し、効果的なプログラムや指導法について検証を行った。



2 事業の目的 (ねらい)

体験活動を通して、困難なことにも積極的に挑戦する姿勢を養い、「やり抜く力」の育成を図る。

3 企画のポイント

当該年度は昨年度のカヌーに特化した事業である「チャレンジカヌーツーリング」から内容を変更し、研修支援で活用されること、前年度からの課題であった「コミュニケーション力」の育成を念頭にカヌーだけでなく既存のプログラムも組み合わせた。さらに、当該年度は講師の日野教授に助言をいただきながら、指導の際に、コミュニケーション力を高めるための工夫を行った。また、事業を通して参加者の変容を見るために、昨年引き続き、事前・事後（直後と1か月後）アンケートを作成し、事業実施による効果の検証を行った。

- | | |
|--------|--|
| 4 主 催 | 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家 |
| 5 後 援 | 愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会・大洲市カヌー協会 |
| 6 期 日 | 1回目 7月16日(日) [クライミング × カヌー]
2回目 8月6日(日) [オリエンテーリング × カヌー]
3回目 8月20日(日) [レクリエーションゲーム × カヌー] |
| 7 場 所 | 国立大洲青少年交流の家
愛媛県大洲市肱川 |
| 8 対 象 | 小学5・6年生・中学生の親子 |
| 9 参加者数 | 1回目：14組30名
2回目：14組29名
3回目：15組32名
※全体応募者数 106組230名 |
| 10 参加費 | 1回目・・・1,190円
2回目・・・1,100円
3回目・・・1,060円 |
| 11 講 師 | 愛媛大学教育学部 教授 日野 克博 氏
大洲市カヌー協会会員
国立大洲青少年交流の家職員 |
| 12 日 程 | 8:50 受付
9:10 開会式・アイスブレイク(仲間づくり) |

- 10:00 チャレンジプログラム①
 1回目 7月16日 クライミング
 2回目 8月6日 オリエンテーリング
 3回目 8月20日 レクリエーションゲーム
- 12:00 昼食・休憩・更衣
 13:00 移動（バス）
 10:00 チャレンジプログラム② カヌー（平水版・ミニツアーリング）
 16:30 移動（バス）・閉会式
 17:00 更衣・解散

13 活動内容

(1) 開会式・アイスブレイク

各回において、日程や事業のキーワードである「やり抜く力」について説明した。さらに、実施の直前と直後、1か月後にアンケートをとることを参加者に伝え、協力を呼び掛けた。開会式後は、全体でアイスブレイクを行ったり班ごとに自己紹介をしたりして、緊張をほぐした。それぞれの目標（頑張ること）を共有し合うことで、コミュニケーションを取り合う場を設定した。さらに、「ポジティブワード」や「ワクワクジェスチャー」といったキーワードを紹介し、コミュニケーションを取ることが活発になるよう促した。

(2) チャレンジプログラム①

（クライミング・オリエンテーション・レクリエーションゲーム）

1回目は、宇和島山岳会の方を講師として招き、クライミングや体育館での屋内ボルダールに挑戦した。子供たちは高い壁に驚きながらも何度も挑戦する姿が見られた。上れた高さをスタッフに伝えるなど自分自身で設定した目標を意識しながらチャレンジすることができていた。また、保護者も子供たちを応援しながら、自らも挑戦して充実した表情が見られた。

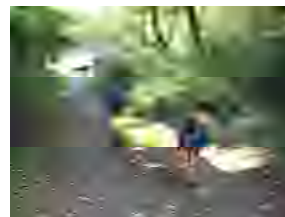
2回目では研修指導員の協力を得て、オリエンテーリングに挑戦した。子供たちだけで班を構成し、どのようにポイントを巡るかといった相談を子供たち同士でしやすいようにした。学年の違いはあったが、それぞれの班で「どのような順路を選択するか。」などを相談しながらポイントを見つけようとする姿が見られ、よくコミュニケーションをとることができていた。

3回目では職員によるレクリエーションゲームを実施した。ウブツカードを用いるなど、お互いにコミュニケーションをとりながら楽しむことのできる内容を設定した。子供同士、すぐに打ち解けるとともに多くの笑顔が見られ、時折歓声も聞かれた。また、保護者が参加する活動もとり入れ、親子で楽しむ場面も見られた。



(3) チャレンジプログラム② (カヌー)

バスで艇庫に移動し、バディで協力しながらカヌーを運んだ。一人1艇のカヌーを使用するので各バディが艇庫から河原までを2往復した。その際もバディ同士で言葉を掛け合い、カヌーを運ぶことができていた。河原でライフジャケットを着用し、熱中症予防のために手首・足首を水につけたり水に浮かんだりした。そして、パドル練習を行い、カヌーの乗り降りや転覆した際の対処方法の説明を聞いた。その後、実際にカヌーに乗り、参加者は肱川でのカヌーの活動を楽しんだ。一部の子供たちはバディと一緒に目標地点を決めこぎを進めるなど、バディを意識する様子も見られた。後半ではミニツーリングを行い、鶯飼レストプラザ周辺までこいだ。全ての日程において、とても気温が高かったが、バディ同士や親子同士で言葉を掛けながら楽しみながら最後までやり抜くことができていた。その後は準備同様、バディで協力して片付けを行った。参加者は疲れている様子ではあったが、最後まで協力してカヌーを片付ける姿が見られた。



(4) 閉会式

交流の家に戻って班での振り返りとアンケートの記入を行った。各班での振り返りでは、個人の目標が達成できたかどうか、一人ずつ発表する時間を設けた。参加者同士、お互いの発表に真剣に耳を傾け、がんばったことを全員で共有できる時間となった。また、多くの参加者が楽しそうな表情をして帰路についていったのが印象的だった。



14 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

【事業満足度】 (大人 44名 子供 46名)

*満足 : 84.4% *やや満足 : 15.6% *やや不満 : 0.0% *不満 : 0.0%

【直後の感想】

- 普段できない体験がたくさんできた。(子供)
 - みんなと協力できて、あきらめず最後までがんばった。(子供)
 - カヌーを運ぶのは大人でも大変だったが、お友達と協力してがんばれていた。(保護者)
 - やり抜く力は1人ではなかなか高まらないが、仲間がいると達成しやすい。(保護者)
- 他にも以下のように以前親子でカヌー事業に参加した経験があり、その際の子供の様子と比較して成長を感じているコメントも見られた。
- 2年前はカヌーを運ぶのをあきらめていたが、今回は最後までがんばれた。(保護者)
 - 昨年より、カヌーを運ぶこと片付けることを積極的にできていた。(保護者)

【1か月後の感想】

- いつもはすぐ諦めるところで、少しでもやってみようと思えるようになった。(子供)
- 友達などがどう言う気持ちなのかを考えながらコミュニケーションをするようになった。(子供)
- 友達作りに積極的になれている。また、勉強やスポーツでも「絶対無理、できん。」という発言が少なくなったように思う。(保護者)
- やったことがないことでも挑戦してみようと以前より前向きに取り組めるようになったと思う。(保護者)

15 事業の成果

昨年度に引き続き、やり抜く力の向上を調査するため、Grit調査*を行った。表1では、Grit調査の質問項目1から4において、実施直後の数値（3回の平均値）が実施直前よりも上がっている。事業に参加したことで「やり抜く力」が向上したものと考えられる。なお、より客観的なデータの収集を目的として、保護者にも同様のアンケートをとった。保護者の結果も併せて以下に示す。

*藤原寿幸氏・河村茂雄氏の「小学生のGrit(やり抜く力)とパーソナリティとの関連」（日本教育心理学会第62回総会発表論文集（2020年））を参考にした。

表1 Grit調査 質問1~4の子供と保護者の回答変化（平均）	子供			保護者		
	直前	直後	変容	直前	直後	変容
1. 自分（子供）はがんびりやである。	2.72	2.93	+0.21	3.13	3.33	+0.22
2. 自分（子供）はどんなことにも一生けん命に取り組む。	2.89	3.33	+0.44	3.08	3.22	+0.14
3. 自分（子供）はむずかしいことやつらいことにも負けない。	2.68	3.07	+0.39	2.85	3.00	+0.15
4. 自分（子供）は始めたことはどんなことでも最後までやる。	2.96	3.26	+0.30	2.64	2.88	+0.24

今年度は、やり抜く力、特に課題であったコミュニケーション力を高めるための指導法やプログラムの開発を目指して取り組んだ。今年度複数の活動プログラムを組み合わせるなどの変更をしたが、表2が示すように昨年度と比べ数値に多少の差はあるが、「やり抜く力」の向上に一定の成果があった。コミュニケーション力についても他の項目に比べて、数値がやや低かったが、昨年度に比べ大きく向上しており、今年度取り組んだプログラム及び指導上の工夫が有効であったと考えられる。

表2 やり抜く力の構成要素に関する質問への回答（3回の平均） ※ [] 内はR4の数値

	協働力	コミュニケーション力	チャレンジ力	安全対応力	実践力	省察力
子供	3.66 [3.58]	3.24 [2.63]	3.77 [3.81]	3.85 [3.56]	3.85 [3.93]	3.62 [3.47]
保護者	3.49 [3.51]	3.11 [2.95]	3.62 [3.81]	3.59 [3.17]	3.69 [3.87]	3.50 [3.38]

また、第1回の実施後に振り返りを行い、参加者同士のコミュニケーションがより活発に行われるようにするために、日野氏より、「明確なキーワードを分かりやすく示したり、指導者が繰り返しそれらを実践していったりすることが必要。」との指摘をいただいた。そこで、第2回と第3回では、「ポジティブワード」、「ワクワクサイン」と言うキーワードを挙げ、具体的な方法を紹介したり、指導者自ら繰り返し実践したりした。プログラムの内容が回によって一部違うためそれぞれのプログラムの特性の影響もある程度結果に影響していると考えられるが、下の表3が示すように、第1回と比べて第2回・第3回は事業実施後のコミュニケーション力についての評価が向上していることが分かった。

表3 コミュニケーション力についての回答

第1回（7/23）		第2回（8/6）		第3回（8/20）		第1回と第2・第3回平均の差	
子供	保護者	子供	保護者	子供	保護者	子供	保護者
3.00	2.29	3.21	3.67	3.50	3.53	+0.36	+1.31

16 今後の課題

本事業の目的は、関係機関と連携しながら特色あるプログラムを開発することで、地域から理解・認知され、研修支援や公立青少年教育施設等で活用されることを目指している。今後は、日野氏や他施設との情報交換を進め、研修支援におけるより有効なプログラムの組み合わせや今までの取り組みで得られた有効な指導法などを整理し、研修支援プログラムとして提供するとともに、やり抜く力を高めていくためのよりよいプログラムを普及していきたい。

（担当：主任企画指導専門職 高木 啓吾）

令和6年度

1 新たな指導法のための職員研修の実施

カヌー活動の指導に関わる職員や外部の研修指導員と合同で、指導の統一を図ったり「ポジティブワード」の有用性を確認したりするため、職員研修を実施した。指導の場面を時系列に分け、それぞれの場面でどのような言葉掛けが考えられるか検討し共有した。それを基に一覧表を作成した。また、作成した一覧表を活用してカヌー指導を行った後に振り返りやシーズン後に研修を行い、改善を図った。

2 研修支援による取組

研修支援で利用する小中学校に対して、これまでの成果を踏まえて作成した「カヌー指導におけるポジティブワード一覧表（試作案）」を活用してカヌー指導を行うとともに、担当教員に対するアンケート調査により、やり抜く力の効果を測定した。

3 利用団体を対象としたアンケートの実施

研修支援において、各小中学校の担当教員にアンケートをとり、カヌー活動を中心とする当施設での体験活動が子供たちのやり抜く力の育成に寄与しているかを確認した。結果は以下の表の通りである。

小中学校全体（回答数162）	向上した （していた）	やや向上した （ややしていた）	あまり向上していない （ややしていない）	向上していない （していない）
集団で生活する力（役割の遂行・協力・規律等）は向上しましたか。	67.3%	32.1%	0.0%	0.0%
協力し合って取り組もうとしていましたか。	79.6%	20.4%	0.0%	0.0%
お互いを励ましたり、いいところやがんばっているところを伝えようとしていましたか。	72.2%	27.2%	0.6%	0.0%
主体的・積極的に取り組もうとしていましたか。	79.0%	19.8%	1.2%	0.0%
安全に気をつけて活動に取り組もうとしていましたか。	66.7%	32.7%	0.6%	0.0%
最後まで一生懸命に取り組もうとしていましたか。	80.9%	18.5%	0.6%	0.0%
いろいろなことに挑戦したいという意欲は向上しましたか。	72.2%	27.8%	0.0%	0.0%
やり抜こうとする力は向上しましたか。	67.3%	32.7%	0.0%	0.0%

小中学校カヌー活動実施団体（回答数124）	向上した （していた）	やや向上した （ややしていた）	あまり向上していない （ややしていない）	向上していない （していない）
集団で生活する力（役割の遂行・協力・規律等）は向上しましたか。	66.9%	32.3%	0.0%	0.0%
協力し合って取り組もうとしていましたか。	79.8%	20.2%	0.0%	0.0%
お互いを励ましたり、いいところやがんばっているところを伝えようとしていましたか。	71.0%	28.2%	0.8%	0.0%
主体的・積極的に取り組もうとしていましたか。	78.2%	21.0%	0.8%	0.0%
安全に気をつけて活動に取り組もうとしていましたか。	67.7%	32.3%	0.0%	0.0%
最後まで一生懸命に取り組もうとしていましたか。	80.6%	18.5%	0.8%	0.0%
いろいろなことに挑戦したいという意欲は向上しましたか。	71.8%	28.2%	0.0%	0.0%
やり抜こうとする力は向上しましたか。	68.5%	31.5%	0.0%	0.0%

小中学校カヌー活動未実施団体（回答数38）	向上した （していた）	やや向上した （ややしていた）	あまり向上していない （ややしていない）	向上していない （していない）
集団で生活する力（役割の遂行・協力・規律等）は向上しましたか。	68.4%	31.6%	0.0%	0.0%
協力し合って取り組もうとしていましたか。	78.9%	21.1%	0.0%	0.0%
お互いを励ましたり、いいところやがんばっているところを伝えようとしていましたか。	76.3%	23.7%	0.0%	0.0%
主体的・積極的に取り組もうとしていましたか。	81.6%	15.8%	2.6%	0.0%
安全に気をつけて活動に取り組もうとしていましたか。	63.2%	34.2%	2.6%	0.0%
最後まで一生懸命に取り組もうとしていましたか。	81.6%	18.4%	0.0%	0.0%
いろいろなことに挑戦したいという意欲は向上しましたか。	73.7%	26.3%	0.0%	0.0%
やり抜こうとする力は向上しましたか。	63.2%	36.8%	0.0%	0.0%

荒天等によりカヌー活動ができなかった団体もあったが、「やや向上した」も含めて、全ての小中学校がやり抜こうとする力が向上していると答えており、当施設での体験活動を通して、やり抜く力が向上することが確認できた。カヌー活動実施団体と未実施団体で比較すると大きくは変わらなかったが、最上位評価に着目すると、「やり抜こうとする力」、その中でも、「安全に気をつけて活動に取り組む力」がカヌー活動実施団体の方が高い傾向にあった。しかし、「お互いを励ましたり、いいところやがんばっているところを伝える力」については、カヌー活動未実施団体の方が高い傾向にあった。

4 普及・啓発活動及び野外教育関係者との意見交換

本取組や成果を速報版としてまとめ、野外教育に関わる研修等において参加者に資料を配付し、取組や効果についての普及を図るとともに、野外教育関係者との意見交換を行った。カヌー活動を中心として体験活動により青少年のやり抜く力が高まったことについては、評価が高く、実際の活動内容やプログラム展開、調査方法に関する質問や、「指導法などを参考にしたい。」、「このような取組を広く広報することで野外教育の価値を高めてほしい。」などの声が多かった。また、カヌー活動だけでなく、他の野外活動にも広く活用できるようなものにしてほしいなどの要望もあった。



V 成果と課題

カヌー活動を中心としたプログラムを実施することで、青少年の「やり抜く力」を育成できることが分かった。指導の際、場面ごとに肯定的な言葉「ポジティブワード」を積極的に使ったり、複数のプログラムを組み合わせたりすることで、青少年の「やり抜く力」をより伸ばすことも示唆された。一方で取組の初期に整理した「やり抜く力」の構成要素の内、「コミュニケーション力」は「協働力」や「チャレンジ力」といった他の数値よりもやや低かった。要因としてカヌーの特性上活動中に協力する場面が限られたり、技能面で不安感から積極的に交流することへの意識が向きにくかったりしたことも考えられる。この課題の対応のため3年目からは、カヌー活動と他のプログラムを組み合わせることで、コミュニケーション力の向上が見られた。対象の状況に合わせて、プログラムや指導の際の言葉掛けをさらに工夫することで、青少年の「やり抜く力」がより高まることを明らかにすることができたので、今後の利用団体のプログラム相談や指導助言に活用していきたい。

VI 今後の取組

今後はこの成果を活かした実践を通して、指導者のスキルアップを図り、より効果的な指導方法を検討するとともに、他の活動プログラムや指導場面での応用も模索していきたい。

また、この成果をより広く発信し、国立大洲青少年交流の家の特色あるプログラムや指導方法を普及啓発することで、利用促進を図るとともに、青少年の野外教育の推進を図っていきたい。

本事業を進めるにあたり、愛媛大学教育学部日野克博教授には、指導方法や評価の仕方など様々な面においてご指導を頂きました。心から感謝いたしますと共に、御礼申し上げます。

(担当：主任企画指導専門職 高木 啓吾)

【大洲資料】

- 資料① 地域の自然を活用した野外教育プログラムの展開と効果
報告書 大洲の取り組み 【概要版】 R 6 作成
- 資料② やり抜く力を育成するための事業構成表 R 3 作成
- 資料③ チャレンジカヌーツアーリング指導案 R 4 作成
- 資料④ O Z Uチャレンジプログラム「やり抜く力」掲示図 R 5 作成
- 資料⑤ カヌー指導におけるポジティブワード 一覧表 R 5 作成
- 資料⑥ O Z Uチャレンジプログラム 実施アンケート R 5 作成
- 資料⑦ 目標シート（O Z Uチャレンジプログラムで使用） R 5 作成

資料

「地域の実情を踏まえた体験活動事業」(特色化事業)

地域の自然を活用した野外教育プログラムの展開と効果

～やり抜く力及び自己を見つめ他者とつながる人間力の育成の育成を目指して～ (概要版)

国立青少年教育振興機構では、より多くの青少年が施設の特徴を生かしたプログラムを体験できるようにすることを目的に活動プログラムの開発を図っている。国立大洲青少年交流の家と国立三瓶青少年交流の家では、「野外教育」を教育テーマとして、地域の自然を活用した野外教育プログラムを通して、青少年の「やり抜く力」及び「自己を見つめ他者とつながる人間力」の育成を図ることを目的として取り組んだ。大洲では、メインプログラムであるカヌー活動を中心にクライミングやオリエンテーリングなどのプログラムを組み合わせ、青少年のやり抜く力を育成するためのより効果的なプログラム展開や指導の検討を行った。



カヌー活動を中心としたプログラムに参加した子供の「やり抜く力」の向上が見られました！

Grit 調査* 質問 1～4 の子供と保護者の回答変化(平均)	子供			保護者		
	直前	直後	変容	直前	直後	変容
1. 自分(子供)はがんばりやである。	2.72	2.93	+0.21	3.13	3.33	+0.22
2. 自分(子供)はどんなことにも一生懸命に取り組む。	2.89	3.33	+0.44	3.08	3.22	+0.14
3. 自分(子供)は難しいことやつらいことにも負けない。	2.68	3.07	+0.39	2.85	3.00	+0.15
4. 自分(子供)は始めたことはどんなことでも最後までやる。	2.96	3.26	+0.30	2.64	2.88	+0.24

*藤原寿幸氏・河村茂雄氏の「小学生の Grit(やり抜く力)とパーソナリティとの関連」(日本教育心理学会第 62 回総会発表論文集(2020 年))を参考にした。

【プログラムに参加した子供・保護者の声(1か月後)】

- いつもはすぐ諦めるところで、少しでもやってみようと思えるようになった。(子供)
- 友達などがどんな気持ちなのかを考えながら関わるようになった。(子供)
- 友達作りに積極的になれている。また、勉強やスポーツでも「絶対無理、できん。」という発言が少なくなったように思う。(保護者)
- やったことがないことでも挑戦してみようという以前より前向きに取り組めるようになったと思う。(保護者)

カヌー活動を行った学校団体の 100%が児童生徒のやり抜く力が向上したと答えています！

(向上した 68.5%、やや向上した 31.5%)

- 苦手なことに取り組む生徒をお互いに励ますことで、最後までやりきることができた。
- 仲間のために動こうとすること、自分の役割をやり遂げる力が見られた。
- あきらめずに挑戦したり、友達と協力する姿が見られた。



【やり抜く力を伸ばすのに必要な力の要素】

協力

ルールを守って、バディや班のメンバーと協力する。

コミュニケーション

バディや班のメンバーをばげましたり、いいところやがんばっているところを伝えたりする。

挑戦

「カヌーを上手にこぎたい」という気持ちをもって、積極的に取り組む。

安全

「自分の命は自分で守る」ということを意識して、安全に気を付けて取り組む。

実践

カヌーに乗れる(カヌーを操作できる)ようになる。

見つめる

カヌー活動を通して、最後までがんばれたかどうか振り返る。



効果的な組み合わせプログラム例

ウォークラリー

クライミング

グループワーク

野外炊飯



～カヌー活動を中心に当施設を利用し、子供たちのやり抜く力を向上させませんか？～



独立行政法人国立青少年教育振興機構 〒795-0001 愛媛県大洲市北只 1086 TEL:(0893)24-5176
国立大洲青少年交流の家 メールアドレス: ozukikaku@niye.go.jp ホームページ: <https://ozu.niye.go.jp>

資料

体験活動を通じた青少年の自立

【現代社会の状況】

- 少子・高齢化の進展
- 地域コミュニティの弱体化や社会参加の喪失
- 自然体験・生活体験・社会奉仕体験等の減少
- 価値観の多様化や生活習慣の乱れ
- スマホやゲーム等への依存
- 科学技術の進歩や経済的発展による利便性の向上

【青少年の課題】

- 自己肯定感の低下や耐性、自己調整力の不足
- 規範意識や人間関係形成力の低下、協調性の不足
- 体力・運動能力の低下、危機回避能力の低下
- 生活習慣病や近視等の健康課題の改善
- 睡眠不足・欠食等による心身不調やストレスの増加
- 地域社会や現実社会、将来への関心の低下

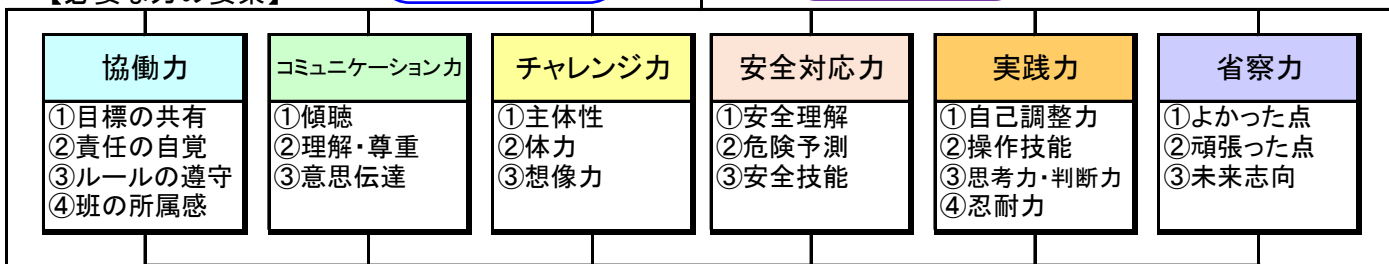
【大洲青少年交流の家のミッション】

仲間と共にやり抜く力を伸ばす青少年の育成

変化の激しい社会の中で自ら課題の解決に挑み、仲間と共にやり抜く人間力

【必要な力の要素】

出会い 挑戦 感動



【プログラム過程と必要な力の要素】

カヌーツーリング

No.	プログラム過程	協働	コミュニ	チャレンジ	安全対応	実践	省察
1	カヌープログラム活動の理解						
	① ねらいや過程の理解と心構え	○		○			
2	平水版の実施						
	① 班の確認と目標の共有・健康観察	○	○	○			
	② 装備の確認と艇の運搬	○	○		○	○	
	③ 準備体操・パドル操作			○	○	○	
	④ 注意事項と安全対策(装備の点検)				○	○	
	⑤ 乗下艇と基本操作			○	○	○	
	⑥ 人数確認と健康観察		○		○		
⑦ 艇の運搬	○	○	○				
3	ツーリングの実施						
	① 班の確認と目標の共有・健康観察	○	○	○			○
	② ツーリングの進め方やルールの理解			○	○		
	③ 注意事項と安全対策(装備の点検)			○	○	○	
	④ ツーリング	○	○	○	○	○	
	⑤ ツーリング中の人数確認と健康観察		○		○		
	⑥ ゴール後の人数確認と健康観察		○		○		
⑦ 運搬と片付け	○	○	○				
4	振り返り						
	① 各自での振り返り(アンケート記入)						○
	② 班内や全体での振り返り	○	○				○
	③ 職員間の振り返り						

大洲の豊かな自然と清流肱川の環境資源

カヌー経験豊かな地域の人材と関係機関の協力

達成感・充実感

自立心

自己肯定感

向上心・探究心

感謝・協調性

豊かな人間性と新たな価値観の形成

チャレンジカヌーツーリング 指導案 (修正版)

- 1 日時 第1回：7月23日(土) 第2回：8月7日(日)
 第3回：8月27日(土) 予備日：9月3日(土)
- 2 場所 午前：交流の家→艇庫→艇庫前河原 午後：艇庫→父橋→緑地公園→交流の家
- 3 ねらい 初めて体験するカヌーツーリングを通して、積極的に挑戦し、やり抜こうとする力の育成を図る。
- 4 準備物 指導者：艇庫鍵、無線機、計測グッズ、AED、救急バッグ、クーラーボックス(OS1、氷、氷嚢)
 地図、ガムテープ、マジック、ライフジャケット、ヘルメット、カヌー、パドル
 緊急車両に乗せておくものとして、AED、救急バッグ、クーラーボックス、担架、毛布

5 展開

活動	時間	○指導者の声掛け ●子どもの予想される反応	留意点
1 受付・更衣	9:00		
2 開会式 (1)所長挨拶 (2)スタッフの紹介 (3)やり抜く力の説明 (4)日程の説明 (5)アイスブレイク (6)班の目標設定	9:30	<p>○「やり抜く力」について説明します。</p> <p>○最後のゴール(片付含む)までがんばろう！</p> <p>●事業への期待が高まる。</p> <p>○自分の好きなものをお題にして、キャンプネームも含めて自己紹介をしよう。</p> <p>●恥ずかしがりながら自己紹介をする。</p> <p>○班のみんなが最後のゴール(片付含む)までやり抜けるよう、班の目標を決めよう。</p> <p>●仕切ることができる子供が班内にいなければ、なかなか意見がでない。</p>	<p>・小学生でも分かるように説明する。</p> <p>・子供たちの気持ちを高めるような演出(例えば笑顔でカヌーに乗艇している参加者の写真の提示等)をする。</p> <p>・参加者の緊張をほぐせるよう職員が積極的に声掛ける。</p> <p>・班の中で意見が出づらいうであれば、職員が子供からがんばりたいことを聞き出し、班の目標とする。</p>
日野先生より「午後のツーリング出発前に行う掛け声の練習をさせるとよい。」			
(バスで艇庫へ移動)	10:15		
3 平水体験 (1)準備・運搬 (2)平水体験 ・パドル練習 ・装備の確認 ・乗艇 ・隊列確認	10:30 11:00 11:20 11:30 11:45	<p>○班で協力してカヌーを運ぼう。</p> <p>●重いカヌーを途中休みながらも懸命に運ぶ。</p> <p>○パドル操作の仕方について、ペアで教え合おう。</p> <p>●指導者から教わったことを真剣に相手に伝える。</p> <p>○ライフジャケットとヘルメットをペアで確認しよう。</p> <p>●職員に教えてもらいながらペアで確認する。</p> <p>日野先生より「慣れてきたらゲーム的な要素を取り入れてみてもおもしろいかも。参加者の漕艇技能を観測することもできる。」</p> <p>●慣れないながらも隊列変更を試み、徐々に隊列</p>	<p>・班員のカヌーを皆で協力して運ぶよう職員が励ます(必要に応じて職員や協会員も運搬に手を貸す)。</p> <p>・熱中症対策として、足首や手首を水に着けさせる。</p> <p>・職員が最終点検を行う。</p>
日野先生より「目標は『可視化=見える化』するとよい。」			

<p>・カヌー運搬</p> <p>・振り返り・午後の日程確認</p> <p>(昼食)</p> <p>(バスで父橋へ移動)</p> <p>4 ツーリング体験</p> <p>(1)準備・運搬</p> <p>(2)ツーリング開始</p> <p>(休憩)</p> <p>(3)シットイン・スタンドアップカヌーについて説明する。</p> <p>(再出発)</p> <p>(4)班でシットイン・スタンドアップカヌーに挑戦し、写真を撮る。</p> <p>(5)緑地公園着</p> <p>(6)片付け</p> <p>(バスで移動)</p> <p>5 閉会式</p> <p>6 更衣・解散</p>	<p>12:10</p> <p>12:30</p> <p>13:30</p> <p>13:45</p> <p>14:00</p> <p>14:30</p> <p>14:45</p> <p>15:15</p> <p>16:00</p> <p>16:15</p> <p>16:30</p> <p>16:45</p> <p>17:00</p>	<p>を整えて移動できるようになる。</p> <p>○班で協力してカヌーを運ぼう。</p> <p>●重いカヌーを途中休みながらも懸命に運ぶ。</p> <p>○午前のカヌーを振り返ってみてどうだった？</p> <p>●運ぶのは大変だったけど、楽しかった。</p> <p>○班で協力してカヌーを運ぼう。</p> <p>●重いカヌーを途中休みながらも懸命に運ぶ。</p> <p>○ゴールを目指してがんばるぞー！！</p> <p>●「えい、えい、おー！！」</p> <p>鵜飼プラザ前でトイレ休憩。</p> <p>○シットイン・スタンドアップカヌーについて説明するよ。だれが座って、誰が立つ？</p> <p>●戸惑いながらも、班で立つ人、座る人を決める。</p> <p>○班でシットイン・スタンドアップカヌーに挑戦してみよう。</p> <p>●おそろおそろ挑戦する。</p> <p>○大洲城が見えてきたよ。もう少し！</p> <p>●表情が明るくなる。</p> <p>○最後まで皆で協力して片付けよう。</p> <p>●疲れてはいるが、協力してカヌーをトラックに積み込む。</p> <p>○振り返りをしよう。</p>	<p>・職員は子供達の漕艇技術を見極める。</p> <p>・瀬の前での待機、入るタイミング、瀬の途中でのパドリング、抜けた後の待機等について知らせておく。</p> <p>・ツーリングに向けてやる気を高めさせる。</p> <p>・トイレ：鵜飼プラザ</p> <p>・如法寺河原から臥龍山荘をバックに写真を撮る。</p> <p>・成功したら、しっかりほめる。</p> <p>・脇川橋の下をくぐるとゴールであることを伝える。</p> <p>・最後までみんなで協力して片付けるようスタッフは声掛けをする。</p> <p>・班で円になって感想を発表し合い、拍手で互いの頑張りを認め合う。</p>
<p>研究の視点</p>	<p>・コミュニケーションの場の設定や職員の働きかけは適切か。</p> <p>・コミュニケーションの場の設定や職員の働きかけがやり抜く力の育成に効果があったか。</p>		

【研究の仮説(案)】コミュニケーションの場の設定や職員の働きかけを適切に行えば、やり抜く力の育成につながるであろう。

OZUチャレンジプログラム

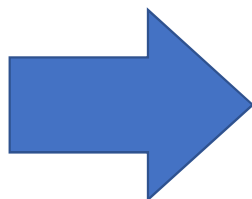
テーマ

「やり抜く力」



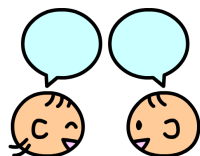
「最後までがんばる」ことももちろん大切

- ・ 「仲間」と一緒に
- ・ 「安全」に気を付けて
- ・ 「挑戦」してやってみる
- ・ 「ふりかえり」も大切

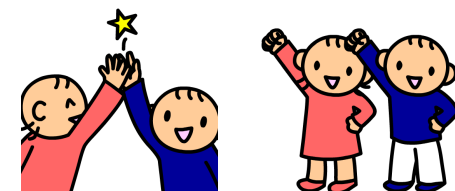


コミュニ
ケーション

ポジティブワード



ワクワクサイン



カヌー指導におけるポジティブワード 一覧表

		集合（導入／全体指導）	艇庫前～準備	河原指導	カヌー体験中	片付け	まとめ
励まし・賞賛 （肯定的）	技能	① ・パディで並べているね。 ・時間を守れて集合ができたね。 ・みんなこちらを向いて話を聞いているね。	② ・早く準備ができたね。	③ ・上手にパドルを操作できているよ。	④ ・上手にこげているよ。 ・繰り返す度に上手になってきた。 ・カヌーをコントロールできだしてるよ。 ・はじめに比べてうまくなったね。	⑤ ・早く片付けができました。 ・次の人が気持ち使えるように片付けようね。	
	行動・態度	⑥ ・素早くバスに乗り込めたね。 ・集合が早くできているね。 ・話を聞く姿勢や態度が素晴らしいですね。 ・テキパキ行動ができていますので、たくさんカヌーができそうだね。 ・静かに集合できているね。	⑦ ・きれいに整列ができているね。 ・よく話を聞いて行動できているね。 ・よく協力できているね。 ・パディと協力して運んでいるね。 ・他の人のカヌー運びを手伝ってすばらしい。	⑧ ・話をよく聞けていたよ。 ・パディをしっかり見ることができているね。 ・パドルのマークを意識しよう。	⑨ ・パディのことをよく見れているね。 ・パディをしっかり見ることができているね。	⑩ ・パドルをきれいに並べることができていましたね。 ・友達の手伝いをしてくれてありがとう。 ・協力してできていたね。 ・パディのサポートもできてすごいね。 ・きれいに片付けができたね。 ・カヌー重かったね。よく頑張りました。 ・協力して片付けられたので、早く終わったね。 ・パディと協力して運んでいるね。	
より良くするするための関わり （矯正的）	技能	⑪ ・時間通り始められるようにしようね。 【全体注意事項】 ・石は踏むだけ。 ・パドルは立てて持つ。 ・ライフジャケットは指示通りに着用する。 ・カヌーを頑張ってこぐ。	⑫ ・パディと声を合わせて持ち上げたり、下ろしたりしようね。	⑬ ・パドルは両手をもう少し広げて持とう。 ・パドルを持つ肘は直角にしよう。 ・肘はアルファベットの「L」のようにね。 ・「1、2、3」のリズムでこいでいきましょう。	⑭ ・大丈夫だよ。一緒にこいでみよう。 ・（流されているとき）上流側に向かってこぐよ。 ・友達にぶつからないように操作してみよう。 ・（実演しながら）このような曲がり方があるよ。 ・大きくゆっくりこいでみよう。 ・パドルを持つ位置を左右均等にしよう。	⑮	
	行動・態度	⑯ ・早く始められるよう、きちんと整列しようね。 ・カヌー体験の時間がたくさんできるように、指示をよく聞いて、テキパキうごこうね。	⑰ ・周囲に気を付けていこう。 ・ここからはパディと活動しますよ。	⑱ ・行動を考えて、自分たちでたくさん乗る時間を作れるといいね。 ・パディから目を離さずよく見てあげてね。	⑲ ・次は〇〇にチャレンジしてみよう	⑳ ・次の団体が気持ちよく使えるように片付けをしようね。	
発問（質問）	知識・技能	㉑ 今からカヌーをする川の名前は何でしょう？	㉒ ・準備はいいですか？	㉓ ・カヌーで曲がるときはどうしたらいい？	㉔ ・どうしたらまっすぐこげるかな？	㉕	
	行動・態度	㉖ ・どのような行動をすればカヌーを体験する時間が長くなりますか？ ・どのような目標を考えてきたかな？	㉗ ・忘れ物はありませんか？	㉘ ・注意点5つ覚えていますか？	㉙	㉚ ・他の友達は片付けが終わったかな？	・自分の目標は達成できたかな？ ・感想を言える人はいますか？
ワクワクジェスチャー		㉛ ⑳ （全体を通して） オッケーサイン、グッドサイン、 （記念写真撮影時） パワー ピース イエー	㉜	㉝	㉞ （こぎ出す前に） エイエイオー	㉟	

小中学生 （ 名前 キャンプネーム ）

OZUチャレンジプログラムに参加していただき、ありがとうございます。
このアンケートは、OZUチャレンジプログラムの効果を調べるためだけに使用します。安心して答えてください。

それぞれの質問に○を1つつけてください。

4：当てはまる 3：だいたい当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：当てはまらない

- | | | | | |
|--|---|---|---|---|
| ○ 自分は、がんばりやである。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ 自分は、どんなことにも一生けん命に取り組む。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ 自分は、むずかしいことやつらいことにも負けない。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ 自分は、始めたことはどんなことでも、最後までやる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ 自分は、いったん目標を決めてから、後になって別の目的に変えることがよくある。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ 自分は、物事に対してむ中になっても、しばらくするとすぐにあきてしまう。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ 自分は、新しいアイデアや計画を思いつくと、以前の計画にきょう味がなくなる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ 自分は、終わるまでに何か月もかかる計画にずっときょう味をもち続けるのは、むずかしい。 | 4 | 3 | 2 | 1 |

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

保護者 （ 名前 キャンプネーム ）

OZUチャレンジプログラムに参加していただき、ありがとうございます。
このアンケートは、OZUチャレンジプログラムの効果を調べるためだけに使用します。安心して答えてください。

それぞれの質問に○を1つつけてください。

4：当てはまる 3：だいたい当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：当てはまらない

- | | | | | |
|--|---|---|---|---|
| ○ お子さんは、がんばりやである。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ お子さんは、どんなことにも一生けん命に取り組む。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ お子さんは、むずかしいことやつらいことにも負けない。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ お子さんは、始めたことはどんなことでも、最後までやる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ お子さんは、いったん目標を決めてから、後になって別の目的に変えることがよくある。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ お子さんは、物事に対してむ中になっても、しばらくするとすぐにあきてしまう。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ お子さんは、新しいアイデアや計画を思いつくと、以前の計画にきょう味がなくなる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ お子さんは、終わるまでに何か月もかかる計画にずっときょう味をもち続けるのは、むずかしい。 | 4 | 3 | 2 | 1 |

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

それぞれの質問に○を1つつけてください。

4：当てはまる 3：だいたい当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：当てはまらない

- | | | | | |
|--|---|---|---|---|
| ○ 自分は、がんばりやである。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ 自分は、どんなことにも一生けん命に取り組む。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ 自分は、むずかしいことやつらいことにも負けない。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ 自分は、始めたことはどんなことでも、最後までやる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ 自分は、いったん目標を決めてから、後になって別の目的に変えることがよくある。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ 自分は、物事に対してむ中になっても、しばらくするとすぐにあきてしまう。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ 自分は、新しいアイディアや計画を思いつくと、以前の計画にきょう味がなくなる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ 自分は、終わるまでに何か月もかかる計画にずっときょう味をもち続けるのは、むずかしい。 | 4 | 3 | 2 | 1 |

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

保護者（名前） キャンプネーム

それぞれの質問に○を1つつけてください。

4：当てはまる 3：だいたい当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：当てはまらない

☆共通

- 今日のOZUチャレンジプログラムに満足していますか？（保護者の方自身） 4 3 2 1
- お子さんは、やりぬく力が高まったと思いますか？ 4 3 2 1

理 由	
-----	--

- スタッフの言葉かけや指導によってお子さんの「やり抜く力」型かまったと思われる場面があれば書いて下さい。

--

それぞれの質問に○を1つつけてください。

4：できた 3：だいたいできた 2：あまりできなかった 1：できなかった

☆午前の活動【 】について

- お子さんは、ルールを守って、バディや班のメンバーと協力できましたか？ 4 3 2 1
- お子さんは、お互いにをはげましたり、いいところやがんばっているところを伝えたりできましたか？ 4 3 2 1
- お子さんは、積極的に取り組みましたか？ 4 3 2 1
- お子さんは、安全に気をつけて、活動に取り組みましたか？ 4 3 2 1
- お子さんは、最後まで一生けんめい取り組みましたか？ 4 3 2 1
- お子さんは、いろいろな事にちょう戦したいという気持ちになりましたか？ 4 3 2 1
- お子さんは、自分が立てた「目標」を達成できましたか？ 4 3 2 1

☆午後の活動【 】について

- お子さんは、ルールを守って、バディや班のメンバーと協力できましたか？ 4 3 2 1
- お子さんは、お互いにをはげましたり、いいところやがんばっているところを伝えたりできましたか？ 4 3 2 1
- お子さんは、積極的に取り組みましたか？ 4 3 2 1
- お子さんは、安全に気をつけて、活動に取り組みましたか？ 4 3 2 1
- お子さんは、最後まで一生けんめい取り組みましたか？ 4 3 2 1
- お子さんは、いろいろな事にちょう戦したいという気持ちになりましたか？ 4 3 2 1
- お子さんは、自分が立てた「目標」を達成できましたか？ 4 3 2 1

裏面に続きます。



それぞれの質問に○を1つつけてください。

4：当てはまる 3：だいたい当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：当てはまらない

- | | | | | |
|--|---|---|---|---|
| ○ お子さんは、がんばりやである。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ お子さんは、どんなことにも一生けん命に取り組む。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ お子さんは、むずかしいことやつらいことにも負けない。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ お子さんは、始めたことはどんなことでも、最後までやる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ お子さんは、いったん目標を決めてから、後になって別の目的に変えることがよくある。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ お子さんは、物事に対してむ中になっても、しばらくするとすぐにあきてしまう。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ お子さんは、新しいアイデアや計画を思いつくと、以前の計画にきょう味がなくなる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ○ お子さんは、終わるまでに何か月もかかる計画にずっときょう味をもち続けるのは、むずかしい。 | 4 | 3 | 2 | 1 |

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

令和5年度 OZUチャレンジプログラム アンケート

月 日 () 実施

小中学生 (名前

キャンプネーム

)

OZUチャレンジプログラムに参加していただき、ありがとうございました。
このアンケートは、OZUチャレンジプログラムの効果を調べるためだけに使用します。
それぞれの質問に○を1つつけて、その理由等も書いてください。
答えるのがむずかしい質問は、家の人といっしょに答えてもらってかまいません。

1 OZUチャレンジプログラムの参加をきっかけに、やり抜く力が高まったと思いますか？

4：当てはまる 3：だいたい当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：当てはまらない

4 3 2 1

理由：

2 OZUチャレンジプログラムに参加してから、「やり抜く力が高まったな」とか
「自分が成長したな」と思う時がありますか。

ある ・ ない

「ある」に○をつけた人は、どんな時か書いてください。

3 その他、OZUチャレンジプログラムに参加してから、がんばるようになったことや
気をつけるようになったことなど、何か自分の中での変化が少しでもあれば、教えてください。

うらにもアンケートがありますので、記入してください。

令和5年度 OZUチャレンジプログラム アンケート

月 日 () 実施

保護者 (名前

キャンプネーム)

OZUチャレンジプログラムに参加していただき、ありがとうございました。
このアンケートは、OZUチャレンジプログラムの効果を調べるためだけに使用します。
それぞれの質問に○を1つつけて、その理由等も書いてください。

1 お子さんは、OZUチャレンジプログラムの参加をきっかけに、やり抜く力が高まったと思いますか？

4：当てはまる 3：だいたい当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：当てはまらない

4 3 2 1

理由：

2 OZUチャレンジプログラムに参加して以降、お子さんの様子をご覧になって、「やり抜く力が高まったな」とか「成長したな」と思う時がありますか。

ある ・ ない

「ある」に○をつけた人は、どんな時か書いてください。

3 その他、お子さんが、OZUチャレンジプログラムに参加してから、がんばるようになったことや気をつけるようになったことなど、何か変化が少しでもあれば、教えてください。

うらにもアンケートがありますので、記入してください。

名前（ ）

【全体】の目標 例：仲間と一緒に〇〇を頑張りたい

【全体】のふりかえり

自分が立てた「目標」を達成できましたか？ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

(4：できた 3：だいたいできた 2：あまりできなかった 1：できなかった)

〈理由〉

【〇〇】の目標 例：〇〇を頑張りたい 〇〇をしたい

【〇〇】のふりかえり

○ 自分が立てた「目標」を達成できましたか？ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

(4：できた 3：だいたいできた 2：あまりできなかった 1：できなかった)

〈理由〉

【□□】の目標 例：〇〇を頑張りたい 〇〇をしたい

【□□】のふりかえり

○ 自分が立てた「目標」を達成できましたか？ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

(4：できた 3：だいたいできた 2：あまりできなかった 1：できなかった)

〈理由〉

国立三瓶青少年交流の家特色化事業&実践研究事業の歩み

「三瓶版モデル型プラン開発事業」

I 趣旨

- ・地元大田市の公立小学校と連携し、国立三瓶青少年交流の家での集団宿泊活動を通して児童生徒の変容を調べることにより、学校のねらいや実情を踏まえた「自己理解」と「他者理解」の育成支援に係る具体的方策の在り方について研究し、モデル型プランの開発を進める。
- ・地域の要望に応え、実態に応じた研修支援の在り方を検討する。

II 事業の背景

令和3年6月に国立青少年教育振興機構青少年教育研究センターが発表した「国立青少年教育施設における小・中学校の集団宿泊的行事に関する調査～コロナ禍における安心安全に配慮した体験活動の在り方～」において、集団宿泊活動を実施した小中学校のうち、「1泊2日」での実施が88.4%、「2泊3日」での実施が11.6%、「3泊以上」での実施が0%という結果であった。集団宿泊活動については、2泊3日以上長期活動の効果が示されているにもかかわらず、大半が1泊2日であることが分かる。また、「当初の計画から時期を延期」と回答した小中学校が76.8%、「当初の計画から日数を縮小」が35.8%という結果であり、多くの小中学校が新型コロナウイルス感染症の影響や働き方改革を理由に縮小・延期をしていると考えられる。

このような状況の中、当所としては、具体的な根拠に基づき集団宿泊活動の教育効果を発信する必要がある。そこで、当所の教育テーマ「自己を見つめ、他者とつながる人間力の育成」の要である「自己理解と他者理解」の深化を促す上で有効となると考えた集団宿泊活動「三瓶版モデル型プラン」を開発・発信することとした。

III 事業の概要

1 テーマ

「自己を見つめ、他者とつながる人間力の育成」

2 主催

国立三瓶青少年交流の家

3 後援

島根県教育委員会、大田市教育委員会

4 協力

大田市立小学校（13校）

5 助言者

福岡教育大学 教育学研究科 スクールシップリーダーシップ開発コース 准教授 山田 洋平 氏

6 各年度の取組（○）と成果の概要（→）

当所では、特色化事業と実践研究事業を兼ねて集団宿泊活動プランである「三瓶版モデル型プラン」の開発を目的として研究を進めている。

（1）1年目（令和3年度）

- 教育テーマに基づくメインプログラムとして、人間関係づくりプログラムである Sanbe Adventure Program（以下「SAP」という。）と三瓶山登山を設定した。
- 本研究の進め方やアンケート結果の分析・考察について研究者と連携した。
- 大田市と連携し、研究協力校を選定した。

- SEL-8S アンケート（「集団宿泊活動における効果の検証方法」に詳細を記載）を用いて1クラス21人の児童の変容を調査した。
- 取組前後で対人関係に関する能力の向上が見られ、SAPの有効性が示唆された。

(2) 2年目（令和4年度）

- 1年目の取組を踏まえ、より多くのサンプルを収集するため、大田市の小学校3校の実態に応じた集団宿泊活動を実施し、延べ100人以上のアンケート分析を行った。
- 登山プログラム用のワークシートを用いて振り返りを実施し、SEL-8S アンケートを用いて登山プログラムの有効性を調査した。
- 協力を実践する場として登山を設定することにより、もともとアンケートの得点が低い児童のコミュニケーションに対する自信と他者理解が深まることが分かった。

(3) 3年目（令和5年度）

- 各学校の設定するプログラム配列と児童の変容との関係をより詳細に分析するため、アンケート項目の改訂を行った。
- 三瓶版モデル型プラン（試案）を作成し、大田市立小学校13校（延べ254人）での集団宿泊活動の実施と研修前後の児童の変容の調査による三瓶版モデル型プランの実施・効果の検証を行った。
- 児童の変容につなげるための目標設定や振り返りの手法を検証した。
- 集団宿泊活動全体を通して、「自立」と「勇気」が高まることが分かった。
- SAPを行うことで「自律」「規律」が維持されることが分かった。
- 振り返りを行うことで「自律」「規律」が高まり、もともとアンケートで否定的な回答をしている児童においては「自立」「友愛」「責任」が高まることが分かった。

(4) 4年目（令和6年度）

- 新三瓶山登山プログラムについては、登山前の目標設定・役割分担、下山後の振り返りを盛り込んだものを作成した。
- 三瓶版モデル型プランについては、これまでの研究成果を踏まえて実施し、効果の検証を行い、改訂版を作成した。
- 大田市内小学校3校（62人）が新三瓶山登山プログラムを実施し、そのアンケート結果やワークシートの記述から、三瓶山登山を含む集団宿泊活動を通して「自立」と「勇気」が高まることが分かった。
- 研究成果を踏まえ、各学校が三瓶山登山を実施する際に参考にする登山ハンドブックを作成した。

(5) 5年目（令和7年度）

- 登山ハンドブックを活用しながら、当所で登山を行う学校団体に効果的な登山プログラムを提案する。
- 研究成果を活用しながら、当所を利用する学校団体の集団宿泊活動の研修デザインを提案する。

IV 研究仮説

当所の目前にある三瓶山は、標高が1,126mであり、小学生にとって適度な負荷を与え、挑戦しやすい山であるといえる。また、「山に登る」という同じ困難に挑戦することで集団の一体感を得やすく、困難を乗り越えることで忍耐力や達成感を得ることが期待できる。さらに、活動中はもちろん、登山前の目標づくりや登山後の振り返りや分かち合いを通して、児童同士が自分自身や友達によさ、頑張り、改善点などについて話し合う姿が想定できる。このような三瓶山プログラムによって、当所の教育テーマ「自己を見つめ、他者とつながる人間力の育成」に欠かせない「自己理解」や「他者理解」が促されると考え、令和4年度に以下の研究仮説を設定した。

【研究仮説】

当所において、三瓶山登山を取り入れた集団宿泊活動を行うことにより、児童は自ら進んで自己を見つめ、他者とつながろうとするであろう。

V 集団宿泊活動における効果の検証方法

1 1年目（令和3年度）・2年目（令和4年度）におけるアンケート

集団宿泊活動の教育効果を明らかにするには、子供たちの変容をより科学的に分析し、考察する必要がある。1年目（令和3年度）には、そのための分析指標として、学校教育でも実践されている心理教育プログラム「社会性と情動の学習（SEL）」を活用し、子供たちの変容を調べることにした。下表に示す8つの社会的能力について、SEL-8S（Social and Emotional Learning of 8 Abilities at School）アンケートを用いて調べることができる。

令和3・4年度は8つの指標のうち、当所の「教育テーマ」と関連が深いと考えられる①～⑤の指標について5観点15問のアンケートを行い、児童の変容を調べた。

（表1）SEL-8Sにおける社会的能力

当所の「教育テーマ」と関連する社会的能力	①	自己への気付き
	②	他者への気付き
	③	自己のコントロール
	④	対人関係
	⑤	責任ある意思決定
その他の社会的能力	⑥	生活上の問題防止スキル
	⑦	人生の重要事態に対処する能力
	⑧	積極的・貢献的な奉仕活動

2 3年目（令和5年度）における新しいアンケートの作成

各学校の実態は多様であり、各学校が設定するねらいも多岐にわたる。また、集団宿泊活動で育成されるのは、社会性に限定されるものではない。そのため、本研究で開発する三瓶版モデル型プランを発展・拡充し、将来的には各学校のねらいに応じたプログラム提案ができるようにするには、各学校の設定するプログラム配列と児童の変容との関係をより詳細に分析する必要がある。

このため、令和5年度に福岡教育大学山田准教授と共に新たに「交流の家アンケート」を作成した。具体的には、当所で集団宿泊活動を行う学校が掲げるねらいの中で特に多く使われる表現に基づく6つの観点と、当所の研究テーマの要である「自己理解」「他者理解」を総括的に表現した「相互理解」を加えた7観点49設問で構成したアンケートである。

7つの観点とその定義は、以下表2のとおりである。

（表2）令和5年度アンケートにおける7つの観点と定義

観点	定義
①規律	決められたルールを守る。
②自立	主体的に行動し、自分たちで課題を解決する。
③自律	最後まであきらめずに行動する。
④友愛	他者に思いやりある行動をする。
⑤責任	自分の仕事や役割を果たす。
⑥勇気	他者に自分の思いや考えを伝える。
⑦相互理解	お互いを理解し合う。

3 アンケート実施時期

アンケートは、モデル実践校の集団宿泊活動実施日を基準として、事前アンケート1回目（T1）を集団宿泊活動の約2か月前、事前アンケート2回目（T2）を集団宿泊活動の1～2週間前、事後アンケート（T3）を集団宿泊活動後1週間以内の計3回実施した。

VI 各年度事業の取組の実際と成果

1 1年目（令和3年度）の取組

(1) 教育テーマに基づくメインプログラムの設定

独立行政法人国立青少年教育振興機構では、全国27の地方施設がそれぞれの特徴に基づいた教育テーマを新たに設けることにより、各施設の個性化・高度化・拠点化を図る取組を進めている。このことを踏まえ、当所では、「自己を見つめ、他者とつながる人間力の育成」を教育テーマとして掲げている。

本事業は、この教育テーマに基づき、三瓶山での登山と人間関係プログラムSAPをメインプログラムに設定することにより、児童の「自己理解と他者理解」の変容について調査・研究を進めることとした。

(2) 研究者との連携

教育心理学を専門とし、SELの研究に実績がある島根県立大学山田洋平准教授（現福岡教育大学准教授）と共に、本研究の進め方やアンケート結果の分析・考察について協力しながら取り組むこととした。

(3) 地元大田市との連携

本研究を実施するに当たっては、①当所において集団宿泊活動を実施する予定があること、②アンケート調査への協力が得られることの2つの条件を満たす協力校が必要となった。当所は、島根県大田市に所在しており、地元の大田市教育委員会が市内の公立小学校に集団宿泊活動を当所で行うように働き掛けている。このため、本研究は、当所が大田市教育委員会と連携しながら実践を進めることとした。

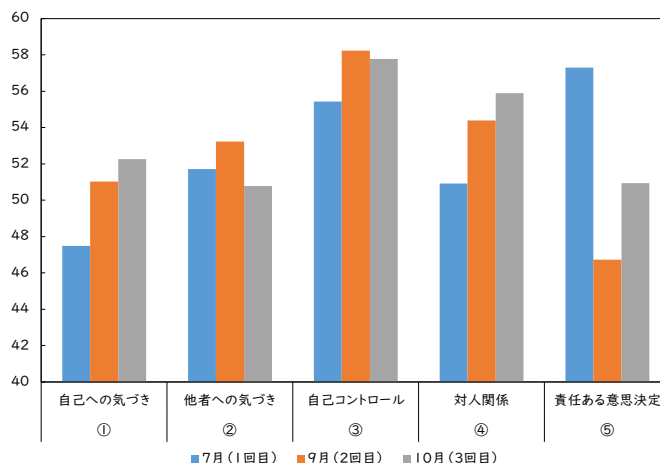
(4) 協力校の選定、集団宿泊活動の実施

本研究初年度ということもあり、モデル実践校として大田市立小学校1校（5年生、1クラス21人）と連携し、試行的に研究を進めた。モデル実践校と集団宿泊活動の日程について2回打合せを行い、SAPについては、集団宿泊活動の直前に出前授業として行うことにより、2泊3日の集団宿泊活動において三瓶山登山とSAPの両方の活動を実施した。

(5) アンケート結果の分析と考察（福岡教育大学 山田准教授による分析）

事前アンケート1回目（T1）から事前アンケート2回目（T2）にかけて学級全体の「自己への気付き」「対人関係」の向上が示された。このことから宿泊研修前のSAPの実施が有効であったことがうかがえる。その他に、学級全体としては大きな変容は見られなかった。

また、アンケート集計の母体が少ないことも偏差値に大きな変化が見られなかった要因の一つであると考える。



(図1) モデル校のアンケート結果

【1年目（令和3年度）の成果】

- ・SAPが「自己への気づき」「対人関係」の向上に有効であることが示唆された。
- ・SAPと登山を含む集団宿泊活動は人間関係能力向上に有効な可能性があることが分かった。

一方、少なくとも100人の児童からアンケートを取ることで、分析結果の信憑性を高めることが必要であると分かった。

2 2年目（令和4年度）の取組

（1）集団宿泊活動におけるメインプログラムの変更

令和3年度（研究1年目）は、教育テーマ「自己を見つめ、他者をつなげる人間力の育成」に基づき、三瓶山を舞台にした「三瓶山登山」と人間関係プログラム「SAP」を三瓶版モデル型プランのメインプログラムに設定することにより、児童の「自己理解と他者理解」の変容について調査・研究を行うこととした。

しかし、SAPは、職員がファシリテーターを務めており、活動内容だけでなく、担当する職員の関わり方が児童の変容に与える影響が大きい。このように複数の影響を受けることから、SAPはプログラムと児童の変容との因果関係を正しく把握することが難しいため、令和4年度からは三瓶版モデル型プランにおけるメインプログラムを三瓶山登山に絞って研究を行うこととした。

また、三瓶山登山には以下のような魅力・教育的価値があると捉えた。

- 当所の目前にある三瓶山は、標高が1,126mであり、小学生にとって適度な負荷を与え、挑戦しやすい山であるといえる。（魅力）
- 「山に登る」という同じ困難に挑戦することで集団の一体感を得やすく、困難を乗り越えることで忍耐力や達成感を得ることができる。（教育的価値）
- 課題達成の過程を丁寧に振り返ることにより、自己肯定感の向上に大きく関わる自己理解や他者理解が促される。（教育的価値）

これらのことを踏まえ、IVに記した研究仮説を設定した。

（2）登山プログラムワークシートの作成

登山プログラムにおいて、児童の気づきを深めるため、目標設定と振り返りに活用できるワークシートを作成した。（P18資料3参照）

（3）協力校における集団宿泊活動の実施

1年目（令和3年度）の取組を踏まえると、各群100人分の統計をとれば、ある程度根拠のあるデータといえる。そこで、2年目（令和4年度）は、100人以上のアンケートを集計し、集団宿泊活動の効果を総合的に検証するため、大田市内の小学校3校に協力を依頼した。3校については、アンケートを依頼するとともに、研修計画づくりの提案・助言を行った。

しかし、コロナ禍等の事情により、集団宿泊活動を実施した2校（A小学校、B小学校）は、三瓶山登山を実施しなかった。また、C小学校は、2日間の日帰りで三瓶山登山を実施し、上記（2）の登山ワークシートを活用した。なお、メインプログラムから外したSAPについてその有効性が示唆されるとともに、集団宿泊活動前に取り組みたいとの要望があったため、A小学校とC小学校は、当所で実施した研修の約1週間前に出前SAPを行った。また、B小学校は、当所で実施した集団宿泊活動中にSAPを実施した。

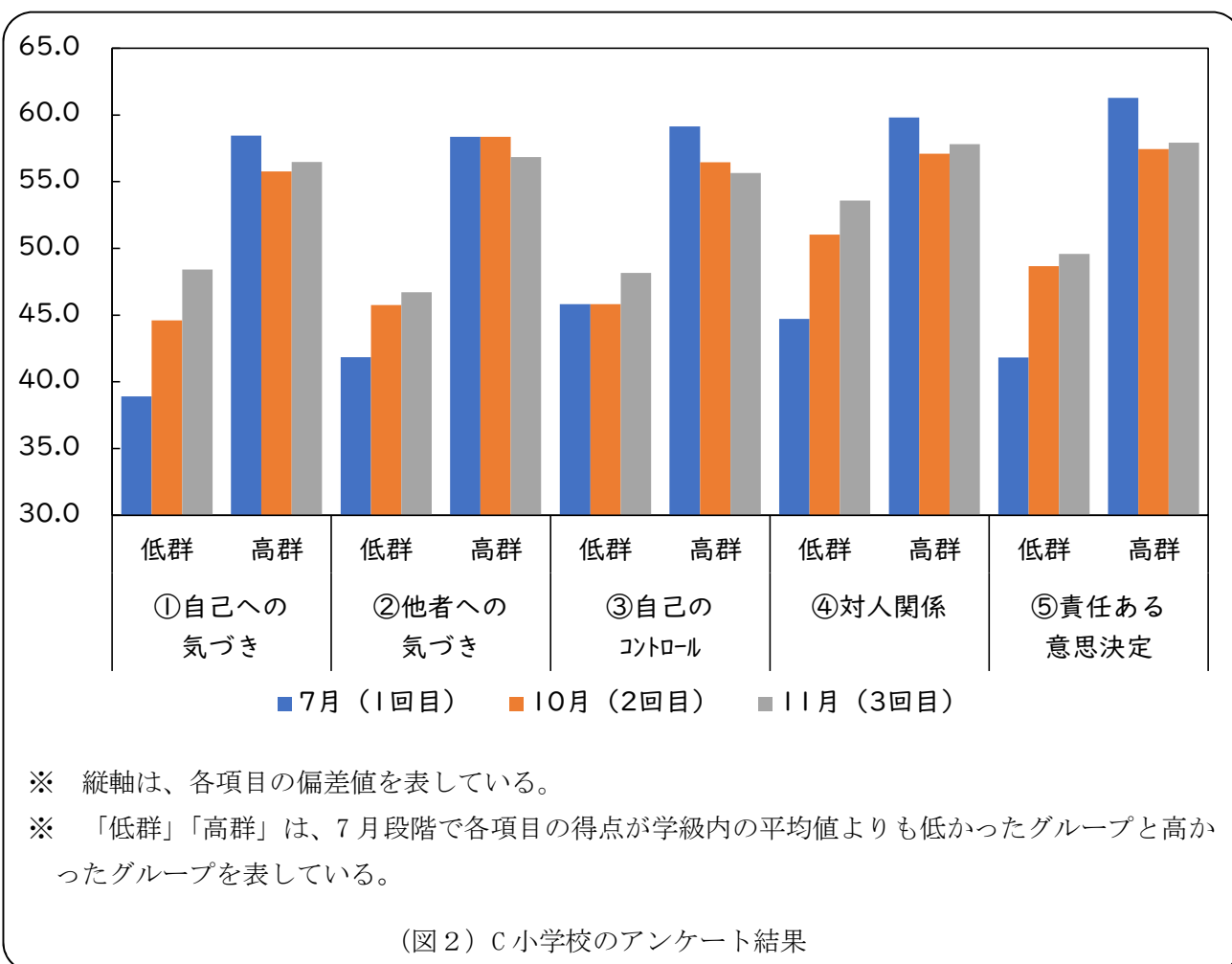
（4）アンケート結果の分析と考察（福岡教育大学 山田准教授による分析）

C小学校のアンケート結果から、当所の集団宿泊活動の効果として、集団宿泊活動を通して対人関係に自信のなかった児童がコミュニケーションに自信をつけた可能性があることが示された。

具体的には、「自己への気づき」「対人関係」「責任ある意思決定」において、元々得点が低い児童（以下「低群の児童」という。）の得点が集団宿泊活動前後で上昇しており、宿泊研修前のSAPの実施前後で大

きな変化が見られた。また、「他者への気づき」においては、出前 SAP と集団宿泊活動を行う中で低群の児童の得点が上昇することが示された。SAP では、他者との協力をねらいとする活動を多く設定した。集団宿泊活動中に行った三瓶山登山の登山プログラムワークシート（振り返り編）には、「声を掛け合った」「協力して頂上を目指した」など「協力」や「助け合い」といったキーワードに関する記述が多く見られた。このことから協力を体験的に理解する SAP の活動に加えて、協力を実践する場として三瓶山登山が設定されたことにより、低群の児童のコミュニケーションに対する自信と他者理解が深まったと考えられる。

なお、教員への聞き取り結果からも集団宿泊活動を通して、児童がより一体感を持ち、協力して学校生活が送れるようになったことがうかがわれる。



【2年目（令和4年度）の成果】

- ・SAPの活動に加えて、協力を実践する場としての三瓶山登山の活動によって児童のコミュニケーションに対する自信と他者理解が深まることが明らかになった。

3 3年目（令和5年度）の取り組み

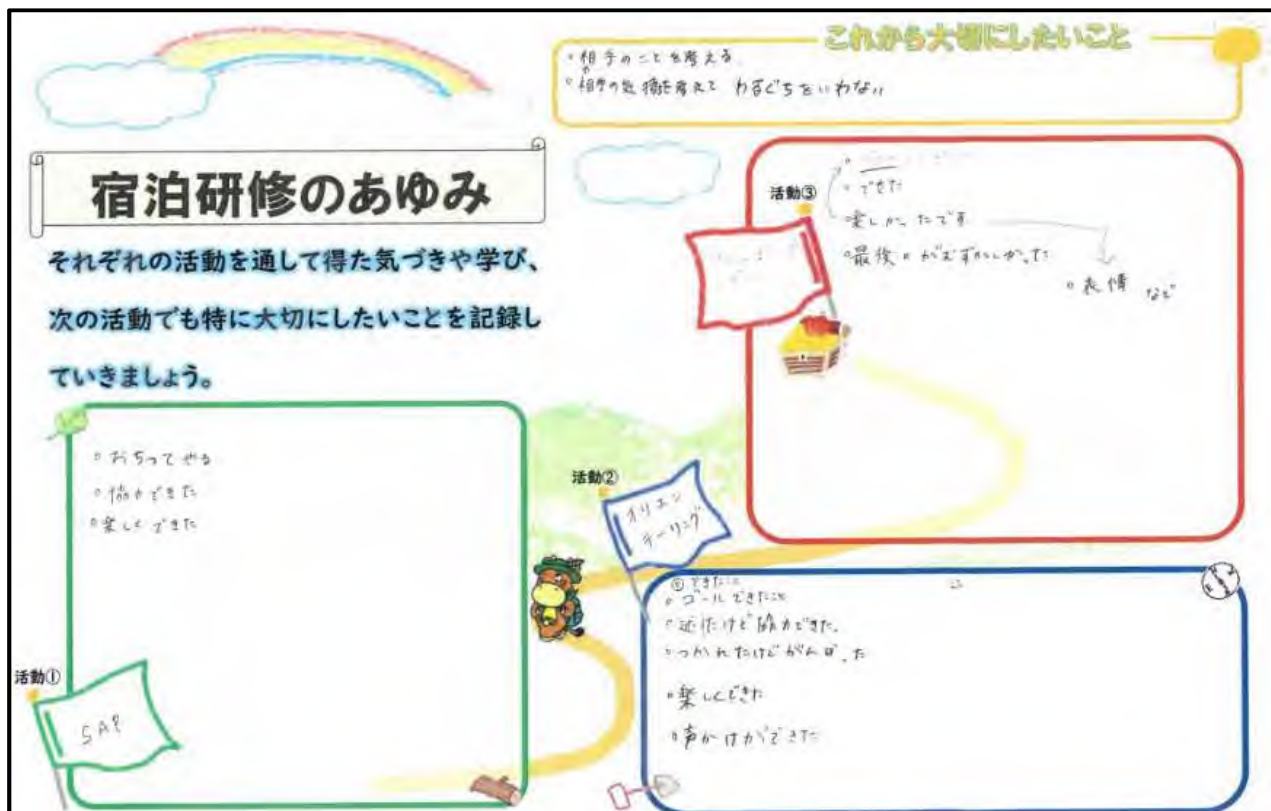
(1) 三瓶版モデル型プラン(試案)の作成

これまでの研究成果を生かして、研修日程の最初にSAPを行うこと（ポイント①）、研修中盤の活動は児童の実態などに基づいて学校の要望に応じた活動を実施すること、研修の終盤に三瓶山登山を行うこと（ポイント②）を取り入れたプログラムを配列し、三瓶版モデル型プラン（試案）を作成した。なお、SAPについては、1年目（令和3年）の実践で集団宿泊活動の1週間前に行うことが有効である可能性が示唆されたが、全ての学校の要望に応じて出前で実施することは困難であり、より実情に即したプログラム提供の形を考慮して、本来は研修日程の初めに入れることが望ましいとした。

(2) 各活動の気づきや学びをつなげるための手立ての工夫

各活動の気づきや学びをつなげるため、「宿泊研修の歩み」という振り返りシートを作成した。これは、主として学級や学年全体で各プログラム後に行う振り返りの場面で活用し、学級や学年で1枚にまとめることを想定して考案したものである。研修日程の最初に実施する活動プログラム SAP での振り返りの場面で児童が自ら見つけた気づきや学びをこのシートに記録し、振り返りの習慣化を図る。そして、他の活動プログラムでも同じように、今までの気づきや学びを確認し、振り返りを行うことで更に深化することができる。

なお、この振り返りシートは、学級や学年全体で1枚使用するだけでなく、児童の実態と引率教員の要望に応じて、個人やグループのワークシートとしても活用できるようにしたところであり、活動を重ねていくうちに気づきや学びの深まりが見られた(図3)。



(図3) 宿泊研修の歩み

(3) 大田市立小学校における集団宿泊活動の実施

令和5年度は、当所での集団宿泊活動を予定している大田市の小学校を直接訪問し、三瓶版モデル型プランに沿った宿泊研修への協力、事前及び事後のアンケート調査への協力を依頼した結果、学校単位で実施する学校(以下「単独校」という。)4校、複数校で実施する学校(以下「連合校」という。)3団体9校の合計13校(254人)から協力を得ることができた。

しかし、三瓶山登山を実施するに当たっては、5～6時間かかること、児童の体力面に不安があることなどから、当所の提案する三瓶版モデル型プランをそのまま各学校の集団宿泊活動に当てはめることができなかった。

そこで、研修日程、三瓶山登山実施の有無の視点により、令和5年度の大田市内小学校の集団宿泊活動の日程を見ると、大きく分けて3つのパターンに分類することができた。

- パターン① 三瓶山登山を計画した1泊2日の集団宿泊活動(連合校2団体7校95人)
- パターン② 三瓶山登山を計画しない1泊2日の集団宿泊活動(単独校2校45人)
- パターン③ 三瓶山登山を計画した2泊3日の集団宿泊活動(単独校2校96人、連合校2校18人)

(4) アンケート結果の分析と考察（福岡教育大学 山田准教授による分析）

なお、Vの（2）で示した7観点49問からなるアンケートにおいて、観点を教育テーマのキーワードに沿って表3の6つの小項目に整理した。アンケートの信憑性は、因子分析と呼ばれる統計手法によって認められた。

（表3）三瓶交流の家アンケートの内容

教育テーマ	小項目
他者とつながる 人間力	自立（主体的に考えて行動できる力） 友愛（他者に思いやりのある行動をとれる力） 勇気（積極的に取り組み、自分の思いや考えを伝える力）
やり抜く力	自律・規律（決められたルールを守ったり、気持ちを押さえたりする力） 責任（自分の責任を果たす力）
相互理解	相互理解（友だち同士でお互いに助け合う力）

アンケート結果から、当所の集団宿泊活動の効果として、

① 研修全体を通して、「自立」と「勇気」が高まること（図2、3）

② SAPを行うことで「自律・規律」が維持されること（図4）

③ 振り返りを行うことで「自律・規律」が高まり（図8）、もともとアンケートで否定的な回答をしている児童においては「自立」「友愛」「責任」が高まること（図5、6、7）

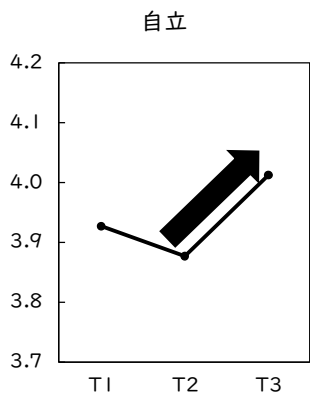
が示された。

①に関して、得点が向上したことは、研修を通して、児童が相手のことを考えながら主体的に行動し、自分の意見を伝えることができるようになったことを意味する。研修期間中は、登山や野外炊飯など様々な活動の中で、児童自身が主体的に考えたり、自分の意見を伝えたりする機会が多くあり、そうした活動が今回の効果に影響したことがうかがえる。

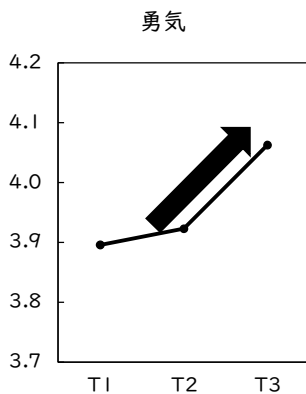
次に②に関しては、SAPを行っていない児童の「自律・規律」因子の得点が低下していた。このことは、研修期間中にルールを守れなかったり、気持ちをコントロールできなかったりしたことを意味する。SAPの活動に含まれているチームビルディングの要素を研修の冒頭に行うことにより、集団行動の中でルールを守ることや気持ちをコントロールする重要性などに気づき、研修期間中の意識が高まった可能性が考えられる。

③については、振り返りの実施による効果の有無を検討するためにA小学校の研修で意図的に振り返りの場を設定したところ明らかになったことである。振り返りを行うことにより、もともとアンケートで否定的な回答をしている児童の得点が高まった。これは、振り返りを行い、活動の価値付けや次への意識付けを行うことにより、意識が向上したためであると考えられる。

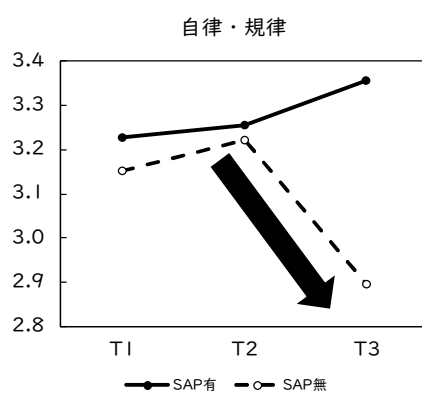
一方で、今回の研究では、登山の有無による研修効果が示されなかった。このことは、協力校が単独校と連合校と異なった参加集団であったこと、参加集団ごとに研修の目的が異なっていたことが可能性として考えられる。まず、参加集団が単独校か連合校かによって、もともとの児童間の仲の良さが異なる。そのため、登山を行っても効果が十分に示されなかったと考える。次に、研修の目的が異なっていることによって、同じ登山の活動であっても、児童や教職員が意識する部分が異なってくる。例えば登山活動については、ルールを守れることをねらいに活動することができれば、自分の意見を言うことをねらいに活動することもできるであろう。こうした目的が参加集団ごとに異なっていたため、十分な効果が示されなかった可能性は否定できない。こうした課題を改善するためには、今回のように活動ごとのねらいの設定を参加集団に委ねること以外に、研修を提供する側がそれぞれの活動のねらいを設定し、それぞれの振り返りの仕方などを提案していくことの重要性を示唆する結果といえる。



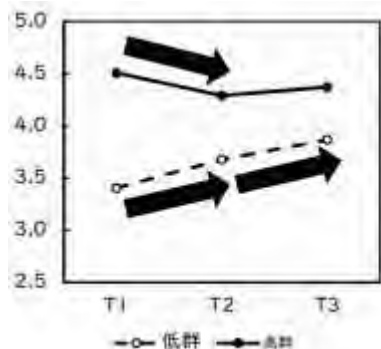
(図4) 自立因子の得点推移



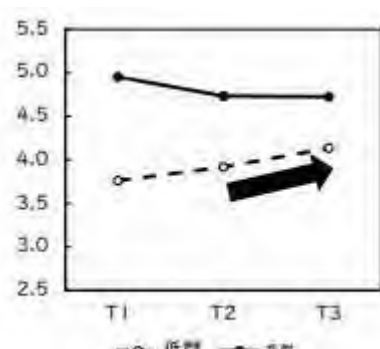
(図5) 勇気因子の得点推移



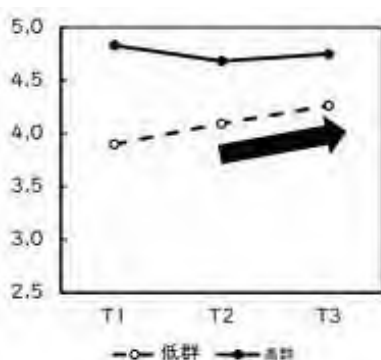
(図6) SAPの有無ごとの自律・規律の得点推移



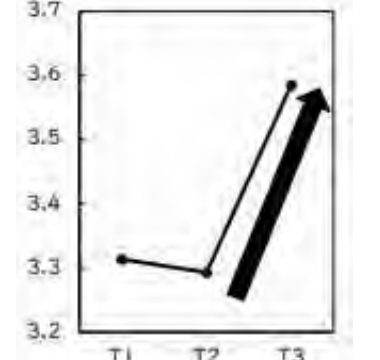
(図7) 自立 (A小) の得点推移



(図8) 友愛 (A小) の得点推移



(図9) 責任 (A小) の得点推移



(図10) 自律・規律 (A小) の得点推移

※ 「低群」「高群」は、取組前の段階で各項目の得点が大田市の平均値よりも低かったグループと高かったグループを表している。

【3年目 (令和5年度) の成果】

- ・当所での宿泊活動は、当所が目指す「自己を見つめ他者とつながる人間力」の育成にとって効果的であることが明確になった。
- ・SAPを研修日程に取り入れることで「自律・規律」の維持が期待できることが明らかになった。
- ・振り返りを繰り返し行うことで「自律・規律」が高まり、もともとアンケートで否定的な回答をしている児童においては「自立」「友愛」「責任」が高まることが明らかになった。

4 4年目 (令和6年度) の取り組み

4年目 (令和6年度) は、登山を含む当所での集団宿泊活動の効果についてこの3年間の研究の成果を踏まえ、モデルプランの完成のための取組を実施した。

(1) 新三瓶山登山プログラムの作成

3年目 (令和5年度) の成果を踏まえ、新三瓶山登山プログラムを作成した。三瓶山は、適度な負荷を

与え、小学生等にとって挑戦しやすい山である。また、様々なコースの選択が可能である。適切なコース選択を行った上で、児童が具体的な役割を持ち目標を設定することにより、児童同士の関わり合いを促し、ねらいを焦点化した登山を行うことが可能である。さらに、下山後に振り返りを行うことで深い学びが生まれると考えた。なお、目標設定と振り返りでは、資料5のワークシートを活用した。

そして、この新三瓶山登山プログラムについては、三瓶版モデル型プランに盛り込むこととした。

(2) 三瓶版モデル型プランの改訂

昨年度の研究の成果として、振り返りを行うことで「自律・規律」が高まり、アンケートの得点が低い児童においては「自立」「友愛」「責任」が高まること示された。その一方で、活動のねらいの焦点化と、十分な振り返りの時間の確保ができなかった課題もあった。これらを踏まえて、三瓶版モデル型プランの改訂を行った。具体的な改定内容としては、①SAPを除く各活動プログラム前に、目標設定の時間を確保すること、②振り返りの時間を十分に確保すること、③登山プログラムとして新三瓶山登山プログラムを導入することの3つである。

(3) 登山ハンドブックの作成

登山経験の少ない小学校若手教員向けの「登山ハンドブック」を作成した。この登山ハンドブックを参考にすることにより、登山経験の少ない教員でも効果的な三瓶山登山の実施が期待できる。

(4) 大田市立小学校における集団宿泊活動の実際

効果の検証に当たっては、登山を計画している大田市の小学校団体に絞って、新三瓶山登山プログラムの効果の検証を行った。アンケートは、昨年度作成したものを使用し、各学校に配布した。

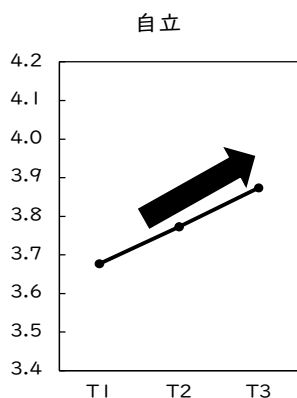
学校の働き方改革等による集団宿泊活動の日数の減少や児童の状況などの理由から、登山を実施しない学校団体が多かったが、小学校3校が集団宿泊活動において新三瓶山登山プログラムを実施することができ、この3校のアンケート結果やワークシートの記載内容から、登山プログラムの効果を分析することとした。

(5) アンケートとワークシートの結果の分析と考察（福岡教育大学 山田准教授による分析を含む。）

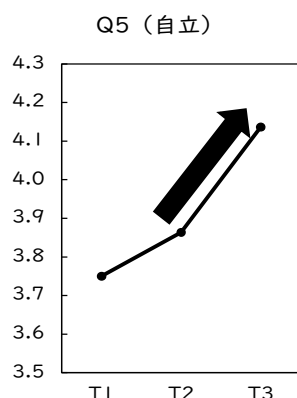
今年度の研修が児童にどのような効果を与えるのかについて検討した結果、三瓶山登山を含む集団宿泊活動を通して「自立」と「勇気」が高まること示された。

① 登山を中心とした宿泊活動の効果について

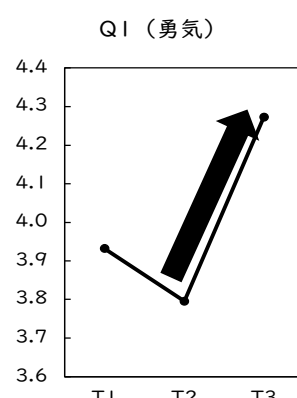
主体的に考えて行動する力に関わる「自立」に分類される質問項目のうち、「Q5 私は、相手の立場になって考えることができる」の項目の得点が上昇したことから、本研修では特に相手の立場になって考えて行動することができるようになったと考えられる。また、積極的に取り組み、自分の思いや考えを伝える力に関わる「勇気」に分類される質問項目のうち、「Q1 私は、物事に対して積極的に取り組むことができる」の得点が上昇したことから、児童の積極性が高まったと考えられる。



(図 11) 自立因子の得点推移



(図 12) 自立因子 Q5 の得点推移



(図 13) 勇気因子 Q1 の得点推移

② 登山ワークシートについて

研修期間中は、登山を中心に様々な活動が行われるが、ワークシートの自由記述の結果を踏まえると、児童自らが班のメンバーと協力して、主体的に取り組む機会や活動が今回の効果に影響したことがうかがえる。

この分析結果を通して、新三瓶山登山プログラムの効果が明らかになった。

【4年目（令和6年度）の成果】

- ・三瓶山登山は、児童の主体性や積極性を高めるために有効な体験活動であることが明らかになった。

VII 成果、今後の展望

1 成果

(1) 「三瓶版モデル型プラン」及び「新三瓶山登山プログラム」の作成

本事業の目的である、「自己理解」と「他者理解」の育成支援につながる集団宿泊学習のモデルプランとして「三瓶版モデル型プラン」を作成することができた。また、このモデルプランのメインプログラムである三瓶山登山については、児童の主体性と積極性の向上につながる「新三瓶山登山プログラム」として整理することができた。

以下は、「三瓶版モデル型プラン」及び「新三瓶山登山プログラム」について、その内容とポイントを記載解説したものである。

2泊3日		ポイント①	ポイント②	ポイント③
一日目	10:00 2:00 13:00	入所式 オリエンテーション	おすすめ活動① 「SAP」 (人間関係づくりプログラム)	16:00 17:10 17:30 19:00 22:30
二日目	9:00 9:30 12:00 13:00	活動③目標設定	活動④目標設定	17:10 17:30 19:00 22:30
三日目	9:00 9:30 14:30 15:00 15:30	活動⑤目標設定	おすすめ活動⑥ 「三瓶山登山」 推奨コース 行き:姫逃池コース 帰り:名号コース	退所式・退所

【研修全体のつくりのポイント】

ポイント①

研修のねらいの明確化

→研修の初め(入所式・オリエンテーション)から終わり(退所式)までねらいを明確にし、児童とも、研修の「めあて」として共有し、研修の最後には、達成状況を振り返るようにする。

ポイント③

目標設定と振り返り・分かち合い

→各プログラムの実施前に、研修全体のねらいを踏まえて目標設定をすることにより、児童が目的意識をもって活動に取り組めるようにする。また、活動後に振り返りをするることにより、児童が自らの気付きや学びの自覚化を促すとともに、分かち合う(共有する)ことで気付きや学びの深化を図る。さらに、児童が得た気付きや学びを次の活動につなげる視覚的な支援として「宿泊研修のあゆみ」シートを活用する。

1泊2日		ポイント①	ポイント②	ポイント④
一日目	10:00 12:00 13:00 16:00 17:00 17:30 19:00 20:00 20:30	入所式 オリエンテーション	おすすめ活動① 「SAP」 (人間関係づくりプログラム)	17:00 17:30 19:00 20:00 20:30
二日目	9:00 14:30 15:30	活動②目標設定	おすすめ活動② 「三瓶山登山」 推奨コース 行き:姫逃池コース 帰り:名号コース	退所式・退所

【プログラム内容のポイント】

ポイント②

SAP(Sanbe Adventure Program)

→SAPに取り組むことにより、集団宿泊活動を通して児童の主体性や忍耐力の維持が期待できる。

ポイント④

三瓶山登山(三新登山プログラム)

→研修の中で三瓶山登山に取り組むことにより、児童の主体性と積極性の向上が期待できる。また、「登山ワークシート」を活用した目標設定と、振り返り・分かち合いにより、三瓶山登山の教育的効果を最大限引き出す。

図 12 「三瓶版モデル型プラン」及び「新三瓶山登山プログラム」の内容とポイントの解説

(2) 「登山ハンドブック」の作成

先述の「新三瓶山登山プログラム」の普及のための手引書として、登山経験が少ない若手教員を主な読者として想定した「登山ハンドブック」を作成することができた。この「登山ハンドブック」では、三瓶山登山がもつ教育的効果と、この効果を引き出すための手立てについて簡潔に解説することに努めた。

また、登山指導への不安を軽減し、集団宿泊活動の中での登山実施への挑戦意欲が高まることを期待して、登山時の持ち物や、三瓶山の登山道の解説図、指導時の留意点を記載した展開例などを記載した。

(3) 当所のねらいの達成度を測定できる「交流の家アンケート」の作成

各学校の設定するプログラム配列と児童の変容との関係をより詳細に分析するため、令和5年度に福岡教育大学山田准教授と共に「交流の家アンケート」を作成した。具体的には、当所で集団宿泊活動を行う学校が掲げるねらいの中で特に多く使われる表現に基づく6つの観点と、当所の研究テーマの要である「自己理解」「他者理解」を総括的に表現した「相互理解」を加えた7観点49設問で構成した。このアンケートを事前（集団宿泊活動の約2か月前）、直前（集団宿泊活動の1～2週間前）、事後（集団宿泊活動後1週間以内）の3回実施し、児童の意識変容の傾向を分析することにより、三瓶山登山を含む集団宿泊活動は、当所が目指す「自己を見つめ他者とつながる人間力」の育成にとって効果的であることを立証することができた。

2 今後の展望

(1) 「新三瓶山登山プログラム」の普及と、内容の充実・発展

4年間の研究の成果を整理した「新三瓶山登山プログラム」について、今後、まずは小学校団体を中心に普及を図りたい。この普及に当たっては、「登山ハンドブック」を積極的に活用するとともに、実際に活用した教員らからの聞き取りを行い、必要な情報の追加や修正を行っていく。

一方、教員の働き方改革などの影響もあり、集団宿泊活動の宿泊日数が減少し、研修中に登山プログラムの取り入れる団体が減少傾向にあるのが実情である。そこで、短時間でも実施可能な登山ルートを検討し、提案していきたいと考えている。さらに、集団宿泊活動の中で登山に取り組みたいという思いがあっても、身体面の配慮が必要な児童への支援体制の不安から登山プログラムを断念する学校団体があるのも現実である。そこで、特別な配慮を要する児童が実施できる登山プログラムについても提案できるようにしていきたい。こうした多様な登山ルートや登山形態については、当所から団体に提案するとともに、実施した団体からの聞き取り調査と結果の分析を行い、将来的には、小学校のみならず中学校や高等学校、一般の青少年団体においても、三瓶山登山の教育的効果が広く認識されるようにしたい。そして、当所で実施する研修において、宿泊や日帰りの研修形態にかかわらず、三瓶山登山に取り組む団体数が増えることを期待している。

(2) 交流の家アンケートを活用した調査結果に基づく、研修のねらいに応じた活動プログラム配列の提案

本実践研究事業で作成した「交流の家アンケート」を活用することにより、当所の活動プログラムごとの実施効果を検証することができる。また、より多くのアンケート回答を蓄積して分析することにより、各活動プログラムの実施効果を示す上で信頼度の高い根拠を得ることができる。そこで、この根拠に基づいて、活動プログラムを分類、整理するとともに、ねらいに沿った研修プランの提案に役立ていきたい。

さらに、アンケート回答データは、グラフとして視覚的な資料提示することができるので、当所での研修の効果を広報する資料として有効に活用していきたい。

資料集

資料1 令和3・4年に使用したアンケート

学校生活についてのアンケート【小学生用】

このアンケートは、テストではありません。答えたことについて先生から何かを言われたり、人に教えたり人と比べたりすることはありません。正しい結果を出すために、正直に答えて下さい。

● 答え方 例) のように、あなたの答えに、一つだけ、はっきりと○で囲んでください。

例) 家の中よりも、外であそびたいと思う。

4. いつも、思う 3. ときどき、思う 2. あまり、思わない 1. ぜんぜん、思わない

1) 自分の気持ちがわかる。

4. いつも、わかる 3. ときどき、わかる 2. あまり、わからない 1. ぜんぜん、わからない

2) 友だちのいいところを、見つけることができる。

4. いつも、できる 3. ときどき、できる 2. あまり、できない 1. ぜんぜん、できない

3) いやなことがあっても、やつあたりをしない。

4. ぜんぜん、しない 3. あまり、しない 2. ときどき、してしまう 1. よく、してしまう

4) 友達の気持ちを考えながら話す。

4. いつも、そうする 3. ときどき、そうする 2. あまり、そうしない 1. ぜんぜん、そうしない

5) 自分だけ意見がちがっても、自分の意見をはっきり言う。

4. いつも、そうする 3. ときどき、そうする 2. あまり、そうしない 1. ぜんぜん、そうしない

6) 自分の気持ちの変化がわかる。

4. いつも、わかる 3. ときどき、わかる 2. あまり、わからない 1. ぜんぜん、わからない

7) 友達の気持ちがわかる。

4. いつも、わかる 3. ときどき、わかる 2. あまり、わからない 1. ぜんぜん、わからない

8) ムカついても、どならない。

4. いつも、どならない 3. あまり、どならない 2. ときどき、どなる 1. よく、どなる

9) 相手がきずつかないように話している。

4. いつも、そうする 3. ときどき、そうする 2. あまり、そうしない 1. ぜんぜん、そうしない

10) ものごとを、よく考えてから決めることができる。

4. いつも、そうする 3. ときどき、そうする 2. あまり、そうしない 1. ぜんぜん、そうしない

11) 自分のできることでできないことがわかっている。

4. よく、わかっている 3. 少し、わかっている 2. あまり、わかっていない 1. ぜんぜん、わかっていない

12) 友達が何かをじょうずにできたとき、「じょうずだね」とほめる。

4. いつも、そうする 3. ときどき、そうする 2. あまり、そうしない 1. ぜんぜん、そうしない

13) いやな時には、人とケンカにならずに、「いやだ」と自分の気持ちを言える。

4. いつも、言える 3. ときどき、言える 2. あまり、いえない 1. ぜんぜん、言えない

14) 人の話をしっかり聞く。

4. いつも、しっかり聞く 3. ときどき、しっかり聞く 2. あまり、聞かない 1. ぜんぜん、聞かない

15) 係(かかり)の仕事をする時、何をどうやったらいいか、自分で考えて決める。

4. いつも、そうする 3. ときどき、そうする 2. あまり、そうしない 1. ぜんぜん、そうしない

小学校 ___年 ___組 ___番 名前 (男・女)

ご協力、ありがとうございました。

1) ~ 15) まで、全て答えているか、確かめて下さい。

クラスごとに、出席番号順になるように、重ねて集めて下さい。

今日の日付

月 日

交流の家アンケート

このアンケートは、宿泊研修を行うことによって学校生活にどのような変化があったかを知るためのものです。
 みなさんに迷惑をかけることはありませんし、学校の成績にもまったく関係ありません。質問文を読んで、今のあなたにどれくらいあてはまるかを答えてください。

■学校名、学年、組、出席番号を書いてください。

() 学校 () 年 () 組 () 番

■次の文を読んで、例のように、「あてはまる」ときは「5」、「少しあてはまる」ときは「4」、「どちらともいえない」ときは「3」、「あまりあてはまらない」ときは「2」、「あてはまらない」ときは「1」に○をつけてください。

	あてはまる	少しあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない	
例	私は、相手の立場になって考えることができる	5	4	3	2	1
例	私は、他の人と違う意見であっても、自分の意見を言っている	5	4	3	2	1

	あてはまる	少しあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない	
1	私は、物事に対して積極的に取り組むことができる	5	4	3	2	1
2	私は、活動するときに、友だちと協力して取り組むことができる	5	4	3	2	1
3	このクラスには、私のことを分かってくれている友だちがいる	5	4	3	2	1
4	私は、物事にねばり強く取り組むことができる	5	4	3	2	1
5	私は、相手の立場になって考えることができる	5	4	3	2	1

(次のページへ つづく)

		あてはまる	少しあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
6	私は、チャイムに従ったり、時計を見たりしながら、時間を守ることができる	5	4	3	2	1
7	私は、ガツカリしている人がいたら、なぐさめたりはげましたりすることができる	5	4	3	2	1
8	このクラスには、何か困ったことがあったときに相談できる友だちがいる	5	4	3	2	1
9	このクラスには、自分の気持ちを分かってくれる友だちがいる	5	4	3	2	1
10	このクラスには、必要なときに助け合える友だちがいる	5	4	3	2	1
11	私は、どんな目標でも達成することができる	5	4	3	2	1
12	私は、自分がやりたいことよりも、任された仕事をがんばることができる	5	4	3	2	1
13	私は、自分が困っていることや助けてほしいことを相手に直接伝えることができる	5	4	3	2	1
14	私は、自分の仕事が最後までできないと、いやな気持ちになる	5	4	3	2	1
15	私は、どんなときでも自分の思っていることを話すことができる	5	4	3	2	1
16	このクラスには、なやみを話せる友だちがいる	5	4	3	2	1
17	私は、自分が使ったものをきちんと後片付けすることができる	5	4	3	2	1
18	私は、グループの話し合いで自分の意見を言うことができる	5	4	3	2	1
19	私は、自分の身の回りの整理整頓をすることができる	5	4	3	2	1
20	私は、相手に何をしてほしいのかを分かりやすく伝えることができる	5	4	3	2	1
21	私は、みんなで話し合って決めたことについて、協力して活動することができる	5	4	3	2	1
22	私は、先生にやるように言われたことは、めんどくでもちゃんとやることができる	5	4	3	2	1
23	私は、友だちに迷惑をかけたり間違ったりしたときに、謝ることができる	5	4	3	2	1
24	私は、困ったときの助けの求め方や頼み方を何通りか考えることができる	5	4	3	2	1
25	私は、めんどくだと思っても、担当の仕事があるときには、それらを責任をもってやることができる	5	4	3	2	1

(次のページへ つづく)

		あてはまる	少 ^{すこ} あてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
26	わたしは、友 ^{とも} だちと違 ^{ちが} う意見 ^{いけん} でも、自分 ^{じぶん} の意見 ^{いけん} を言うことができる	5	4	3	2	1
27	わたしは、クラスや係 ^{かかり} の仕事 ^{しごと} をきちんとすることができる	5	4	3	2	1
28	わたしは、どんなときでも冷静 ^{れいせい} でいることができる	5	4	3	2	1
29	わたしは、グループで ^{ぶんたん} 分担 ^{やくわり} した役割 ^は を果たすことができる	5	4	3	2	1
30	わたしは、相手 ^{あいて} の気持ち ^{きもち} になって考 ^{かんが} えたり行 ^{こう} 動 ^{どう} したりすることができる	5	4	3	2	1
31	わたしは、落ち込 ^お んでいる友 ^{とも} だちがいたら、その人 ^{ひと} を元 ^{げん} 気 ^き づけることができる	5	4	3	2	1
32	このクラスには、「いいね」「すごいね」と言 ^い ってくれる友 ^{とも} だちがいる	5	4	3	2	1
33	わたしは、先生 ^{せんせい} や友 ^{とも} 達の話 ^{はなし} を最後 ^{さいご} まで聞 ^き くことができる	5	4	3	2	1
34	わたしは、つらい出来 ^{でき} 事 ^{ごと} があると耐 ^た えられないことがある	5	4	3	2	1
35	わたしは、思 ^{おも} うとおりにならないとき、どうしたらうまくい ^{かんが} くか考 ^{かんが} えることができる	5	4	3	2	1
36	わたしは、わ ^わ からない問 ^{もん} 題 ^{だい} も、ま ^ま ず自分 ^{じぶん} で考 ^{かんが} えることができる	5	4	3	2	1
37	わたしは、友 ^{とも} だちに悪 ^{わる} 口 ^{ぐち} やうそを言 ^い うことがある	5	4	3	2	1
38	わたしは、良 ^よ いと思 ^{おも} うことは、自分 ^{じぶん} から進 ^{すす} んで行 ^{おこな} うことができる	5	4	3	2	1
39	わたしは、他 ^{ほか} の人 ^{ひと} に指 ^し 示 ^じ される前 ^{まえ} に自分 ^{じぶん} で決 ^き めて行 ^{こう} 動 ^{どう} することができる	5	4	3	2	1
40	わたしは、イライラするとおさ ^お えられなくなるがある	5	4	3	2	1
41	わたしは、自 ^じ 信 ^{しん} がないことでも最 ^{さい} 後 ^ご まであきらめず ^と に取 ^と り組 ^く むことができる	5	4	3	2	1
42	わたしは、学 ^{がっ} 校 ^{こう} やクラス ^の きまりを ^{まも} 守 ^{まも} らないことがある	5	4	3	2	1
43	わたしは、友 ^{とも} だちに自分 ^{じぶん} の意見 ^{いけん} を言うことができる	5	4	3	2	1
44	わたしは、友 ^{とも} だちが何 ^{なに} かに困 ^{こま} っていたら、手 ^て 助 ^{だす} けすることができる	5	4	3	2	1
45	このクラスには、元 ^{げん} 気 ^き がないとき、声 ^{こゑ} をかけてくれる友 ^{とも} だちがいる	5	4	3	2	1
46	わたしは、自分 ^{じぶん} のことは自分 ^{じぶん} ですることができる	5	4	3	2	1
47	わたしは、自分 ^{じぶん} の感 ^{かん} 情 ^{じょう} をうまくコ ^こ ント ^ン ロ ^ル ールすることができる	5	4	3	2	1
48	わたしは、や ^よ って良 ^{わる} いことか悪 ^い いことかについて、自分 ^{じぶん} で考 ^{かんが} えて判 ^{はん} 断 ^{だん} することができる	5	4	3	2	1
49	わたしは、友 ^{とも} だちから何 ^{なに} かを頼 ^{たの} まれたら、嫌 ^{いや} がらず ^ひ に引 ^ひ き受 ^う けることができる	5	4	3	2	1

アンケートは以上^{いじょう}です。ありがとうございました。

資料3 令和4年度作成登山プログラムワークシート（目標づくり編・振り返り編）

国立三瓶青少年交流の家 登山プログラムワークシート【目標づくり編】

小学校 年 組 番 名前

○登山チャレンジ日: 月 日 曜日 目的地

○通るルート : 行きのルート: コース 帰りのルート コース

○班の目標

○班の目標達成のために自分がやること

三瓶山の標高は1,126(いい風呂)mです。
登山をしている時はつらく苦しい時もあるかもしれませんが、
それでも仲間とともにやりとげた時は、
きっと大きな達成感を感じることでしよう。
みなさんの登山がすてきな体験になりますように!



国立三瓶青少年交流の家 登山プログラムワークシート【ふりかえり編】

小学校 年 組 番 名前

次の質問の当てはまる番号に○をつけましょう。

①班の目標は達成することはできましたか?

わからない	まったく できていない	あまり できていない	少してきた	とてもきた
0	1	2	3	4

②班の目標達成のためにがんばりたいことはできましたか?

わからない	まったく できていない	あまり できていない	少してきた	とてもきた
0	1	2	3	4

③登山をしてみて、どんなことを感じましたか?自由に書きましょう。

④登山の体験を今後に生かすことができそうですか?

わからない	まったく できない	あまり できない	少してきた	とてもきた
0	1	2	3	4

⑤④の質問の番号を選んだ理由を書きましょう。

資料4 令和4年度作成登山プログラムワークシート（目標づくり編・振り返り編）

これから大切にしたいこと

④ 宿泊研修のあゆみ

それぞれの活動を通して得た気づきや学び、
次の活動でも特に大切にしたいことを記録し
ていきましょう。

活動①

活動②

活動③

令和 年 月 日 () ~ 月 日 () 学校名:

国立三瓶青少年交流の家

資料5 新三瓶山登山プログラム目標設定・振り返りワークシート

登山プログラムワークシート【目的づくり編】

学校名 _____ 年 _____ 組 _____ 番 名前 _____

実施日 _____ 月 _____ 日 () 目的地 男三瓶・女三瓶・子三瓶・孫三瓶・その他()
※いずれも正しいものに○をつけてください。

行きルート _____ コース _____ 帰りのルート _____ コース _____

目標 ☆登山を通して、班のメンバーがどのようになりたいか。(班として目指す姿)

目標達成のための自分の関わり ☆班の目標を達成するために自分が取り巻きたいこと。

三瓶山で一番高い男三瓶山の標高は1,126m(いい気圧メートル)です。
 登山をしている時はつらく苦しい時もあるかもしれませんが、
 それでも仲間とともにやりとげた時は、きっと大きな達成感を感じることでしょう。
 みなさんの登山がすきな体験になりますように。

 国立三瓶青少年交流の家

登山プログラムワークシート【ふりかえり編】

学校名 _____ 年 _____ 組 _____ 番 名前 _____


1 班の目標の達成度と、目標達成のための自分の関わりについて、ポイントで表してみましょう。

		目標達成度 <small>班の目標はどれだけ達成できた？</small>	自分の関わり <small>班目標の達成のために自分がどれだけ関わったか？</small>
ポイント	① 自分自身	ポイント	ポイント
	② 班全体	ポイント/ポイント未満	ポイント/ポイント未満
メモ			

☆ポイントは 1:ほとんどできなかった 2:少しできた 3:だいたいできた 4:よくできた 5:とてもよくできた の5段階で表してみましょう。

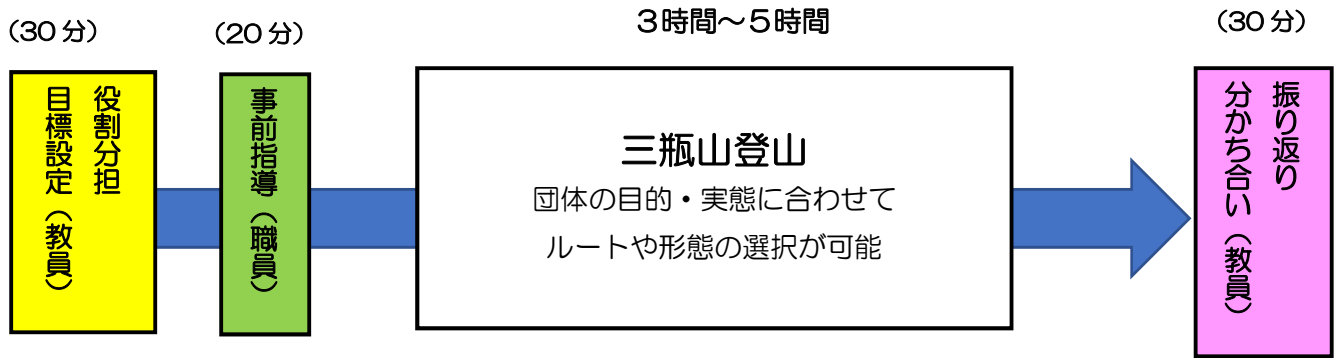
2 登山を通して得られた気づきを書いてみましょう。

自分自身について	班のメンバーについて

 国立三瓶青少年交流の家

資料6 新三瓶山登山プログラム登山時役割分担表

役割	仕事の内容	名前
リーダー(先頭)	<ul style="list-style-type: none"> ・危険物の確認 ・おくられている人がいないかの確認 	
副リーダー(最後尾)	<ul style="list-style-type: none"> ・ペース確認 ・リーダーの補助 	
保健係	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの健康状態の確認 	
生活係	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物のチェック ・時間の確認 	



※ 振り返り・・・内省
分かち合い・・・共有

児童が具体的な役割をもち、目標を設定することにより、体験を通して多くの気づきが生まれます。

振り返りを通して、体験活動で得た気づきから学びを導くことができます。班等での振り返りでは、他の児童との分かち合いを通して、より深い学びが生まれます。

三瓶山登山では、登山前に役割分担、目標設定を取り入れ、児童の主体的な学習を促した上で登山を行い、下山後に振り返り・分かち合いを行うことにより、気づきから学びを導き、深い学びにつなげることができます。

男三瓶山登山（姫逃池コース） 姫逃池コースを通過して男三瓶山に登るコースです。

9:15	9:30	10:00	12:00	12:50	15:00	15:30
目標設定 役割分担	事前指導	男三瓶登山 姫逃池コース	昼食・休憩	下山 姫逃池コース 又は 名号コース	振り返り 分かち合い	解散

男三瓶山登山（名号コース） 名号コースを通過して男三瓶山に登るコースです。木の根をつかんで登る場所もあり、難易度が少し上がります。

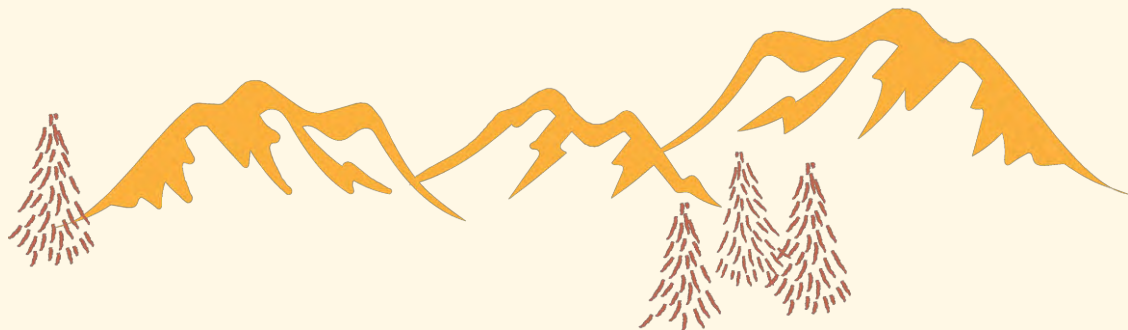
9:15	9:30	10:00	12:10	13:00	15:00	15:30
目標設定 役割分担	事前指導	男三瓶登山 名号コース	昼食・休憩	下山 姫逃池コース	振り返り 分かち合い	解散

女三瓶山登山 名号コースを経由して女三瓶山に登ります。

9:15	9:30	10:00	12:00	13:00	15:00	15:30
目標設定 役割分担	事前指導	女三瓶登山 名号コース→女三瓶	昼食・休憩	下山 女三瓶→ 名号コース	振り返り 分かち合い	解散

学習の流れ	○具体的な活動内容(担当者)	指導上の留意点	時間
目標設定	<p>○ 登山をする目的を確認する。(教師)</p> <p>☆ 今回は、班の協力する力を高めることを目標として登山を行います。</p> <p>○ ワークシート(P9参照)を活用して、児童が班の目標を設定する。(教師)</p> <p>☆ 班ごとに登山の目標を立てましょう。どんなことを声掛けるのか、どのような行動をするのか詳しく書きましょう。</p> <p>【児童の反応例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苦しそうな人ががんばれと声を掛ける。 ・ 友達のがんばりをほめる ・ 周りに合わせたペースで歩く。 ・ 列をそろえて歩く。 <p>☆ 班で立てた目標を全体に伝えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標が立てづらい場合は、全体で出ている目標を確認する。 ・ 班を回りながら具体的な内容の目標になっているか確認する。 ・ ワークシートの活用により、気付いたことを適切にまとめることができるようにする。 	<p>5分</p> <p>20分</p> <p>5分</p>
事前指導	<p>○ 安全な登山の仕方を知る(職員)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三瓶山の特徴についても触れる。 	20分
登山	<p>○ 登山の実施</p> <p>班ごとに役割を決め関わり合いながら登山を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登山を行う前に、持ち物や隊列、児童がトイレを済ませたか確認する。 ・ 登山の最中に進んで班の仲間と関わる児童を認め、価値付けをする。 ・ 山頂の休憩時間を使って、班として、協力できているかを確認する 	3~5時間
振り返り 分かち合い	<p>○ 班で集まり、登山の振り返り・分かち合いを行う。(教師)</p> <p>個人で「個人のとしての得点・班としての得点」をワークシート(P12参照)に書く。</p> <p>☆ 個人で、個人のとしての得点と班としての得点を書きましょう。その際に理由も考えておきましょう。</p> <p>○ 班で得点を発表し合い、その理由を伝えあう。</p> <p>☆ 班で得点を発表し合い、理由を伝えあいましょう。</p> <p>○ 班で良かった点、改善点を話し合う。</p> <p>☆ 班で出た良かった点・改善点を全体に伝えましょう。</p> <p>【児童生徒の反応例】</p> <p>(よかった点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 励まし合えたこと ・ お互いのがんばりを認め合えたこと ・ みんながペースを守って列をそろえて歩けたこと ・ 下りの危ないところで、助け合えたところ <p>(改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 励ましの声が小さかった。 ・ みんなのペースがばらばらだった。 ・ 友達が困っているのに助けられなかった <p>○ 全体共有をする</p> <p>☆ 班で出た良かった点、改善点を全体に伝えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な児童生徒の登山中の姿を伝え、点数を考慮を通して、対話的な振り返りができるようにする。 ・ 個人の得点の理由から良かった点、改善点を話し合うことにより、班の全員が振り返り、分かち合いに参加できるようにする。 ・ 出てきた気付きや学びを次の活動や日常生活につなげるようにする。 	<p>5分</p> <p>5分</p> <p>15分</p> <p>10分</p>

小学校教員向け
登山ハンドブック



はじめての三瓶研修もこれで安心！

児童が変わる

さん べ さん

三瓶山登山



山頂から日本海や鳥取県の大山など、
360度一望できる

初心者にも登りやすく、
いろいろな登山ルートが選択可能

初心者でも登りやすい標高

人と自然の関わりで生まれた
景観が見られる

豊かな自然に触れられる

火山の噴火の跡が見られる

三瓶山の魅力

～三瓶山登山で三瓶を満喫しよう！～

他にも・・・

癒し

たくさんのお湯がある

グルメ

さんべそば
三瓶高原牛乳
放牧牛

歴史・文化

くにびき神話の舞台
石見神楽

三瓶山登山がいいのは
分かるんだけど・・・



やっぱり不安

1 **なぜ三瓶山登山？** 3

学級の間関係づくりにおける教育的効果

2 **小学生の登山って大丈夫？** 4

初心者でも大丈夫 男三瓶山登山コース徹底解説

3 **三瓶山登山Q&A**..... 8

登山に関する不安や疑問に回答

4 **ただ登って下るだけにしないために**..... 9

よりよい登山にするためのおすすめプランの紹介

5 **服装や持ち物はどうすればいいの？** 13

写真で分かりやすく解説

6 **どんな準備をすればいいの？** 14

事前準備のチェック項目

1 なぜ三瓶山登山？

登山をした子供たちの感想

A
あきらめずに登ったら
達成感があった

B
自分から進んで
声をかけることができた

A
頂上まで登れて
うれしかった



A
みんなのおかげで
頂上に登ることができた

B 下山の時に
友達に助けられて
うれしかった

B 苦しいときに
励ましてもらって
うれしかった



三瓶山登山を通して 児童にこんな力が付きます

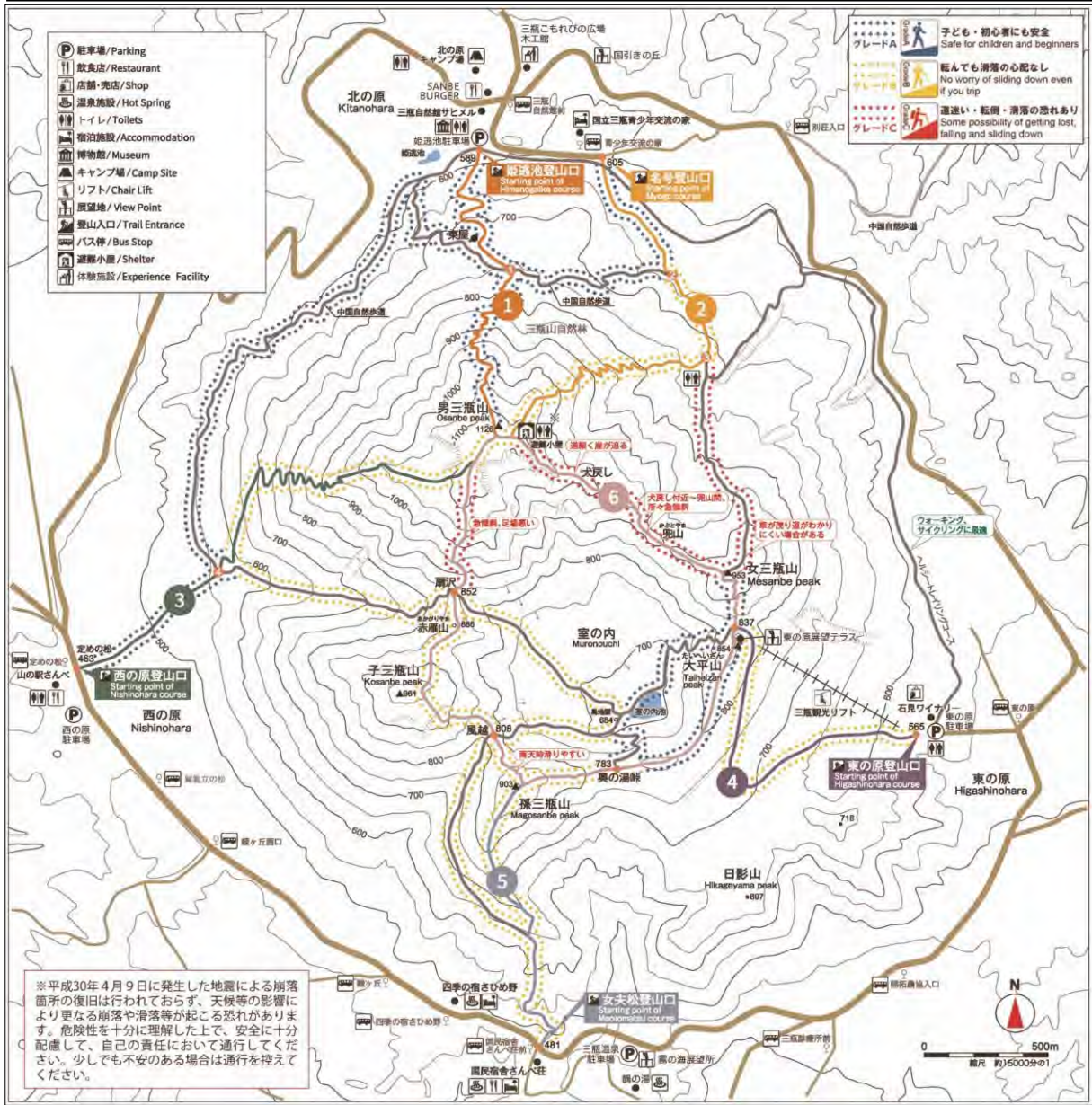


A
他者に
自分の思いや考えを
伝える力

B
主体的に行動し
自分たちで課題を
解決する力

三瓶山登山の教育的効果に関する
研究内容を知りたいときは
こちらから

2 小学生の登山って大丈夫？



出典:三瓶山広域ツーリズム振興協議会『国立公園 三瓶山登山ガイドブック』<https://www.sanbesan.jp/mountain/>

三瓶山のコースについて

利用団体の体力や時間設定に応じて、いくつかの登山プログラムが選択できます。

小学生に
おすすめ

初級

男三瓶登山

①姫逃池コース・②名号コース・③西の原コースがあります。
往復4~5時間のもっともポピュラーな登山コースです。
初めての場合は、①姫逃池コースが登山道もよく整備されていておすすめです。

女三瓶登山

②名号コースの途中から女三瓶山に登ります。
往復3~5時間の手軽な登山コースです。(東の原から三瓶観光リフトを使った登山も可能)

中級

中国自然歩道経由
男三瓶登山

交流の家から中国自然歩道を経由して③西の原コースから男三瓶山に登ります。
全行程5~6時間の登山コースです。

上級

縦走登山

女三瓶山から男三瓶山まで縦走する登山コースです。往復5~7時間かかります。
⑥犬戻し付近は登山道の両端が崖になっており、通行に注意が必要です。

全山登山

女三瓶山、大平山、孫三瓶山、子三瓶山、男三瓶山の各峰を一周するコースです。
全行程6~8時間かかります。交流の家から出発する場合、時計回りがおすすめです。

※中級、上級コースは基本的に中学生以上が対象です。

ひめのがいけ 姫逃池登山コース



⑩男三瓶山山頂。お疲れさまでした。
晴れていると、日本海や出雲大社、
鳥取県にある日本百名山の「大山」が一望できます。



⑨段差がなくなり小径が見えてきます。
ゴールはもうすぐです。



⑧標高 1,050mを超えた辺りに、
通行禁止の道があります。
右の道を進んでください。



⑦標高 900mを超えると
道が険しくなります。
足元に気を付けてください。



⑥標高 850m手前。
谷側に踏み外さないように特に注意して
歩きましょう。



⑤標高 800m付近。
ベンチやなだらかな道があり
休憩におすすめです。



④森の中で耳を澄ますと
たくさんの鳥の鳴き声が聞こえます。



③東屋を過ぎてすぐに
中国自然歩道との交差点があります。
間違えずに男三瓶山方向へ進みます。

中国自然歩道

中国自然歩道

東屋

姫逃池

姫逃池登山口

国立三瓶青少年
交流の家

三瓶自然館
サヒメル



①サヒメルの駐車場から山側に進んだ場所に、
姫逃池登山口があります。
ここから登ります。



②標高 700mを過ぎた辺りに東屋があります。
登山口から約30分。
みんなで休憩ができます。



みょうごう 名号登山コース



④トイレの前は広くなっており、休憩でも使用できます。



⑦山頂から標高950m付近までは、木の根につかまりながら登る場所が多くあります。手足を上手に使って上り下りしましょう。



⑧男三瓶山山頂。山頂付近は、周りに植物が生い茂っているため、足元をよく見て歩いてください。



⑤⑥標高800m、900m付近には、ベンチがあり休憩することができます。



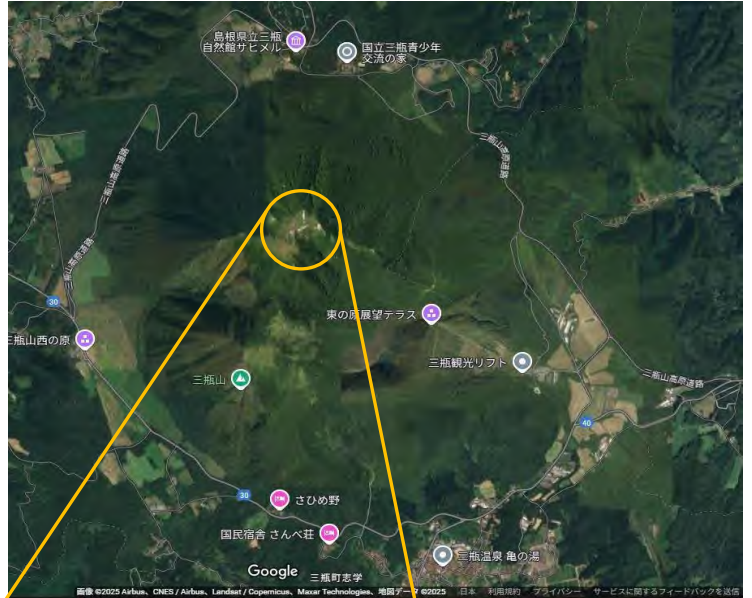
③トイレ利用の場合は、女三瓶山・トイレ方面に100m進んでください。



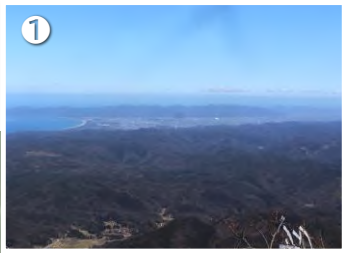
②道を進んでいると分岐点に出ます。男三瓶山・女三瓶山の方面に進んでください。



①交流の家の前のサイクリングロード(中国自然歩道)を横切り、名号登山口から登ります。土の道を進みましょう。



男三瓶山頂上 おすすめスポット



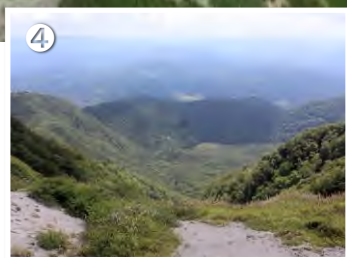
晴れていると、日本海や出雲大社、大山等が一望できます。



三瓶山頂標識
集合写真の
撮影場所として
おすすめです。



ベンチがたくさんあり、
昼食場所におすすめです。



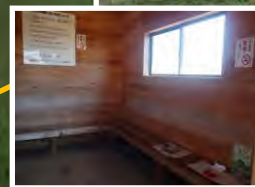
火口が
一望できます。



三瓶山頂神社



木の階段を降りると、
避難小屋と
トイレがあります。
どなたでも
利用できます。



3 三瓶山登山Q&A



Q1 登山の隊列はどのようにすればいいの？

A1 先頭にリーダー、最後尾にサブリーダー、体力に自信のない児童をリーダーの後ろに配置します。

Q2 登山の歩くペースはどうしたらいいの？

A2 一定のペースでふだんよりもゆっくり歩きます。下山時は、疲労で足が動きにくくなるので、特に一定のリズムを意識するといいです。

Q3 登山中の休憩はどれくらいの頻度でとればいいのか？

A3 三瓶山では、20分～30分に1回程度の休憩が望ましいです。休憩は、他の登山者の邪魔にならない場所、勾配がきつくない場所、落石のおそれがない場所を選びましょう。



Q4 休憩時には何をすればいいの？

A4 水分補給 栄養補給 服装の調整
メンバーの健康確認 登山道の確認
を行うと良いです。
※暑い季節は、日陰で帽子を脱いで熱をにがすと熱中症になりにくくなります。

Q5 ガイドさんはいるの？

A5 研修指導員を有料で依頼することができます。登山コースにより指導料が変わります。料金は、交流の家 HP をご確認ください。



Q6 トイレはあるの？

A6 名号コースと、男三瓶山山頂(令和7年5月中設置予定)にあります。希望の団体には、出発前に携帯用トイレをお渡しします。(携帯用トイレは、使用した場合のみ料金をいただきます。)

Q7 もし事故が起きたら？

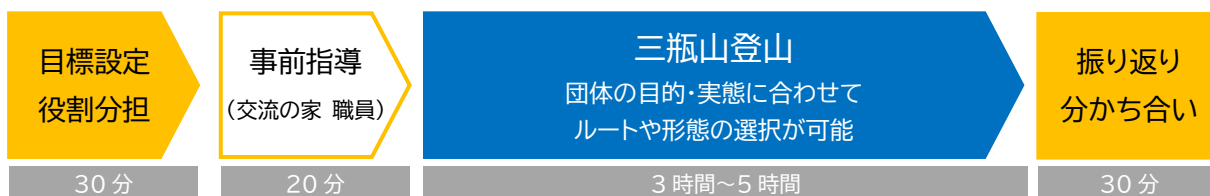


※名号登山道のトイレまでは、車で救助に行くことができます。

4 ただ登って下るだけにしないために

～主体的・対話的で深い学びを生み出す三瓶山登山～

三瓶山登山の計画例



児童が具体的な目標を設定することにより、体験を通して多くの気づきが生まれます。

振り返りを通して、体験活動で得た気づきから学びを導くことができます。

班での振り返りでは、他の児童との分かち合いを通して、より深い学びが生まれます。三瓶山登山では、登山前に目標設定を取り入れ、登山を通して、班のメンバーがどのようになっていたいか(P11★印参照)などを児童が主体的に考えた上で登山を行い、下山後に振り返り・分かち合いを行うことにより、気づきから学びを導き、深い学びにつなげることができます。

※振り返り……内省
分かち合い…共有

男三瓶登山(姫逃池登山コース)

姫逃池コースを通して男三瓶山に登るコースです。

9:00	9:15	10:00	12:00	12:50	15:00	15:30
目標設定 役割分担	事前 指導	男三瓶山登山 姫逃池コース	昼食 ・ 休憩	男三瓶山下山 姫逃池コース 又は 名号コース	振り返り 分かち合い	解散

男三瓶登山(名号登山コース)

名号コースを通して男三瓶山に登るコースです。木の根をつかんで登る場所もあり、難易度が少し上がります。

9:00	9:15	10:00	12:10	13:00	15:00	15:30
目標設定 役割分担	事前 指導	男三瓶山登山 名号コース	昼食 ・ 休憩	男三瓶山下山 姫逃池コース	振り返り 分かち合い	解散

女三瓶登山

名号コースを経由して女三瓶山に登ります。

9:00	9:15	10:00	12:00	13:00	15:00	15:30
目標設定 役割分担	事前 指導	女三瓶山登山 名号コース→女三瓶	昼食 ・ 休憩	男三瓶山下山 女三瓶→名号コース	振り返り 分かち合い	解散

登山時の役割分担

三瓶山登山を行う際に、班で役割を決めると、グループ内での関わり合いが促され、より効果的な登山が可能です。登山での役割分担を決める際に活用できる資料を紹介します。

役割	リーダー (先頭)	副リーダー (最後尾)	保健係	生活係
仕事の内容	危険物の確認・ 班全員の 状態の把握	ペース確認 リーダーの補助	メンバーの 健康状態の確認	忘れ物のチェック 時間の確認
名前				
グループで特に頑張ること				

展開例（主として小学校の児童を想定した展開例）

● 活動内容 ★ 発問

学習の流れ	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
目標設定	<ul style="list-style-type: none"> ● 登山をする目的を確認する。(教師) ★ 今回は、班の協力する力を高めることを目標として登山を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標が立てづらい場合は、全体で出ている目標を確認する。 ・班を回りながら具体的な内容の目標になっているか確認する。 ・ワークシートの活用により、気付いたことを適切にまとめることができるようにする。 	5分
	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシート(P11 参照)を活用して、児童が班の目標を設定する。(教師) ★ 班ごとに登山の目標を立てましょう。どんなことを声掛けるのか、どのような行動をするのか詳しく書きましょう。 <p>【児童の反応例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦しそうな人ががんばれと声を掛ける。 ・友達のがんばりをほめる。 ・周りに合わせたペースで歩く。 ・列をそろえて歩く。 		20分
	<ul style="list-style-type: none"> ★ 班で立てた目標を全体に伝えましょう。 		5分
事前指導	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全な登山の仕方を知る。(交流の家職員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・三瓶山の特徴についても触れる。 	20分
登山	<ul style="list-style-type: none"> ● 登山の実施 班ごとに役割を決め、関わり合いながら登山を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登山を行う前に、持ち物や隊列、児童がトイレを済ませたか確認する。 ・登山の最中に進んで班の仲間と関わる児童を認め、価値付けをする。 ・山頂の休憩時間を使って、班として、協力ができているかを確認する。 	3～5 時間
振り返り 分かち合い	<ul style="list-style-type: none"> ● 班で集まり、登山の振り返り・分かち合いを行う。(教師) 個人で「個人としての得点・班としての得点」をワークシート(P12 参照)に書く。 ★ 個人で、個人としての得点と、班としての得点を書きましょう。その際に理由も考えておきましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な児童の登山中の姿を伝え、点数を考えることにより、対話的な振り返りができるようにする。 	5分
	<ul style="list-style-type: none"> ● 班で得点を発表し合い、その理由を伝えあう。 ★ 班で得点を発表し合い、理由を伝えあいましょう。 		5分
	<ul style="list-style-type: none"> ● 班で良かった点、改善点を話し合う。 ★ 班で出た良かった点・改善点を全体に伝えましょう。 <p>【児童の反応例】</p> <p>(よかった点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・励まし合えたこと。 ・お互いのがんばりを認め合えたこと。 ・みんながペースを守って列をそろえて歩けたこと。 ・下りの危ないところで、助け合えたところ。 <p>(改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・励ましの声が小さかった。 ・みんなのペースがばらばらだった。 ・友達が困っているのに助けられなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の得点の理由をもとに良かった点、改善点を話し合うことにより、班の全員が振り返り、分かち合いに参加できるようにする。 	15分
	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体共有をする ★ 班で出た良かった点、改善点を全体に伝えましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出てきた気付きや学びを次の活動や日常生活につなげるようにする。 	10分

登山プログラムワークシート【目標づくり編】

学校名 _____ 年 組 番 名前 _____

実施日 _____ 月 日 () 目的地 男三瓶・女三瓶・子三瓶・孫三瓶・その他()

※↑あてはまるものに○をつけてください。

行きのルート _____ コース 帰りのルート _____ コース

目 標 ★ 登山を通して、班のメンバーがどのようになっていきたいか。(班として目指す姿)

目標達成のための自分の関わり ★ 班の目標を達成するために自分が取り組みたいこと。

三瓶山で一番高い男三瓶山の標高は1,126m(いい風呂メートル)です。
登山中は、つらく苦しいときがあるかもしれません。
それでも仲間とともにやりとげたときは、きっと大きな達成感を感じることでしょう。
みなさんの登山がすてきな体験になりますように。



登山プログラムワークシート【振り返り編】

学校名 _____

年 組 番 名前 _____

1

1人で考える

目標達成のための自分の関わりと、班の目標の達成度について、点数で表してみましょう。

		達成度 ・自分が取り組みたいことはどれだけ達成できた？ ・班の目標はどれだけ達成できた？	理由 どうしてその点数にしたか理由を書こう！
ポイント	① 自分の 関わり	/ 100点	
	② 班の目標の 達成度	/ 100点	

2

班全員で話し合って考える

登山を通して得られた気づきを書いてみましょう。

自分自身について (自分自身の良かった点・今後に生かしたいこと)	班のメンバーについて (メンバーの良かった点・今後に生かしたいこと)

5 服装や持ち物はどうすればいいの？

三瓶登山の装備と準備

帽子
日差しや落下物から頭を守ります。

手袋(軍手)
植物や岩、虫などから手を守ります。木の根を使って登山を行う場面でも活躍します。

長袖・長ズボン
植物や岩、虫などから全身を守ります。

ザック(リュックサック)
荷物を入れます。できるだけ荷物の量は少なくし、しっかりと体に密着させます。(弁当・水筒・タオル・雨具・防寒具等)

長めの靴下

運動靴
はきなれた靴。滑りにくく、丈夫な靴がおすすめです。

交流の家で貸出しているもの(教員用)

 <p>無線機 安全確認、トラブル時の連絡手段に使います。</p>	 <p>補助用ロープ 登山時の補助、トラブル時の救助に使います。</p>	 <p>熊鈴 クマよけの効果があります。</p>	 <p>救急バッグ 応急手当をする道具が入っています。</p>	 <p>テンチョ・ツェルト 携帯トイレ使用時の目隠しになる。防寒用具としても使えます。</p>	 <p>携帯トイレ 未使用なら返却できます。</p>
 <p>かみなり探知機 落雷の危険度を知らせます。</p>	 <p>温湿度計 熱中症の危険度を知らせます。</p>	 <p>コンパス(方位磁針) 方角を確認できます。</p>	 <p>記念写真用幕・日付カード(男三瓶山のみ) 山頂で記念撮影をする際に活用できます。</p>		
 <p>双眼鏡</p>	 <p>ガイドマップ</p>	 <p>トレッキングポール</p>			

6 どんな準備をすればいいの？

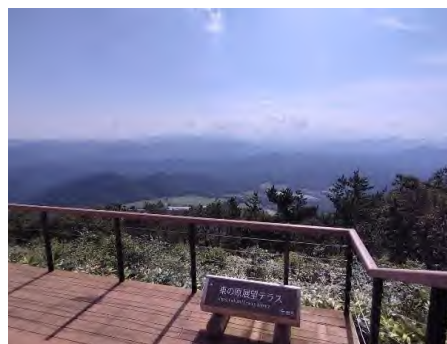
事前
確認

Point 1

登山計画の 立案



- 登山の目的・メンバーの決定
- 登山の目的地とルート of 決定
 - ※登山コース参照
- 登山ルートの事前踏査



事前
確認

Point 2

登山計画の 共有

※交流の家では登山前に
プログラム確認表を作成していただき、
登山の打合せを行い、
情報共有をします。



事前
確認

Point 3

装備の確認

詳細については、
「服装や持ち物はどうすればいいの？」
(P13)参照

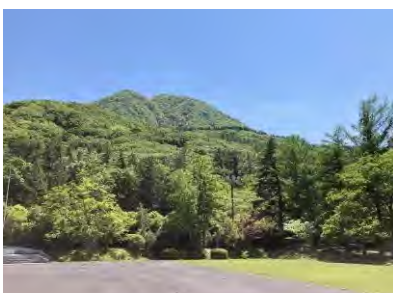


当日
確認

Point 4

児童の 体調確認

- 健康な状態か
- ごはんをしっかりと食べたか
- 前日はよく眠れたか
- 行事や勉強の疲れはないか





引用文献：三瓶山広域ツーリズム振興協議会『国立公園 三瓶山登山ガイドマップ』

「はじめての三瓶研修もこれで安心！児童が変わる三瓶山登山」

国立三瓶青少年交流の家
島根県大田市山口町山口 1638-12
TEL(0854)86-0319

令和7年2月発行

専門家の分析（国立大洲青少年交流の家）

愛媛大学 日野 克博

I はじめに

国立大洲青少年交流の家（以下、大洲交流の家とする）では、カヌー活動を中心とした野外教育プログラムを通じて「やり抜く力」を育成する取組を行ってきました。大洲交流の家が有する「大洲の豊かな自然と清流肱川の環境資源」と「カヌー経験豊かな地域の人材と関係機関の協力」を基盤に、4年間にわたって研修プログラムの工夫・改善を図り、その取組の効果検証を行ってきました。大洲交流の家がミッションとして掲げる「仲間と共にやり抜く力を伸ばす青少年の育成」は、変化の激しい社会のなかで青少年を取り巻く現代的・社会的な教育課題の改善につながるものです。特色化事業の取組の効果が、学校や関係団体にも波及・展開されることが期待されています。

以下、この取組の概要を振り返り、その成果と今後の課題について考察していきます。

II 課題の発見と課題の解決に向けた取組

大洲交流の家では「やり抜く力」を育成するためにさまざまな教育事業を展開してきました。「やり抜く力」を伸ばすために必要な要素を、「協力」「コミュニケーション」「挑戦」「安全」「実践」「見つめる」（後に「協働力」「コミュニケーション力」「チャレンジ力」「安全対応力」「実践力」「省察力」に整理される）の6つの力として捉え、その育成に取り組まれています。

令和3年度はコロナ禍の影響や天候不良による中止/延期となる回があったものの、日帰り事業としてカヌー体験活動が計8回実施されました。事後アンケートから参加者の満足度は高い値であったものの、「コミュニケーション力」に関する項目が他の項目と比べて低い評価でした。

令和4年度は前年度に課題としてあがった「コミュニケーション力」の育成に着目し、「コミュニケーション力」を高めるための指導法などの改善を図りました。具体的には、指導案の作成、目標設定の可視化、活動の振り返り、バティ活動の導入、集団達成の場面創出などです。

令和5年度は、カヌー体験活動の指導法を他の研修支援にも活用することを想定し、「クライミング」「オリエンテーリング」「レクリエーションゲーム」とカヌー体験活動を組み合わせた事業を展開しました。さらに、コミュニケーションを促進するため、「ポジティブワード」や「ポジティブジェスチャー」の活用を促す指導を取り入れました。

令和6年度はこれまでの取組をもとに「ポジティブワード一覧表」を作成し、それを活用した研修支援を行いました。その成果を検証し、今後の研修支援に活かすことが目指されました。

III 「つながり」を意識した活動プログラムの特徴づくり

今回のプログラムの特徴は従来の教育プログラムの良さを拡充し、指導法の改善を行った点にあります。学校現場では授業の三要素として、教材・子ども・教師があげられます。それらが有機的なつながりをもつことで学習の効果が高まっていきます。大洲交流の家のプログラムも同様で、カヌー体験活動、参加者（子ども）、指導者がどのようにつながっていくかが重要になってきます。特に次の3つの「つながり」を促進する取組がなされました。

1 活動とのつながり

大洲市カヌー協会ほか地域の関係機関と連携し、カヌー体験を通じて肱川の自然のすばらしさや歴史文化遺産を学び、より自然体験の魅力に触れる工夫がされていました。

2 仲間とのつながり

カヌーは今回一人一艇（通常の研修支援は二人一艇が多い）を使用しました。そのなか

で、バディ活動やグループ活動の場を設定し、他者を意識した活動場面や他者との相互交流が促進され、コミュニケーションの力を育む工夫がされていました。

3 自分とのつながり

参加者一人一人が個別の目標を設定してその振り返りを丁寧に行うことや、周りからの「ポジティブワード」「ポジティブジェスチャー」を受ける機会を増やすことで、自己肯定感や自己効力感を高める工夫がされていました。

IV 成果の検証とその活用

プログラムの成果を確認するため、事前と事後でアンケートを実施しました。また、「やり抜く力」に関連する Grit 調査（藤原・河村、2020）の項目を参考にした調査も実施しました。どちらの調査結果からも、各項目において単元前後でプラスの変容がみられました。また、項目間の比較において、「コミュニケーション力」に課題がみられたもの、取組の工夫を重ねるごとに評価は高くなっていました。なお、項目間での重み付けや参加者の特徴や属性に応じた分析等を行うことで、より具体的な改善の視点が得られるようになると思われます。

V 今後の展望

今後、関係機関と連携しながら研修支援を行い、より多くの団体が活用できる教育プログラムの普及や指導方法の改善を進めていくためのポイントとして、以下の点をあげさせていただきます。

1 指導者間の指導理念や指導方法の共有

複数の指導者が指導にあたる場合や、地域の関係団体に講師を依頼する場合、または事業終了後に学校などで継続して指導にあたる場合もあります。効果を波及させていくためには、指導者にとってより分かりやすい指針や指標を示すことが重要になります。特に、子どもたちの指導に直接関わる指導者のかかわりや指導方法は大きな影響を与えます。教育プログラムを通して実現したい姿や目標を具体化し、指導方針や指導資料を指導者間で共有することで、汎用的で効果的な教育プログラムになっていきます。

2 汎用的な力の育成と他のプログラムへの波及

子どもたちの多様化や社会問題の複雑化に伴い、教育課題の解決には多方面からのアプローチが必要になっています。大洲交流の家で重視している「コミュニケーション力」の育成は、体験的な活動を通じて培われる要素が多いため、カヌー体験などの教育プログラムに大きな期待が寄せられます。しかし、体験するだけで「コミュニケーション力」が自然に育まれるわけではなく、指導者のかかわり方が重要な要素になります。今回の取組は、自然体験活動に特化したものではなく、他の教育プログラムへの応用が可能です。「やり抜く力」の育成を目指すうえで、他の研修支援や公立青少年教育施設等にも広がるのが期待されます。

3 データを利活用した指導改善の取組

参加した一人一人の学びや成長を重視し、参加者が「楽しかった」「満足した」などのデータを大切にするとともに、その要因や原因を分析することが今後のプログラム改善につながります。近年では、デジタル化によりデータ収集が簡便かつ効率的に行えるようになってきました。より簡便な方法を取り入れつつ、データを有効に活用して教育プログラムの改善や成果の検証を図っていく必要があります。

最後に、これからの不透明な社会を生き抜くためには、困難なことにも積極的に挑戦する「やり抜く力」を育成することは大変意義深いものであります。青少年交流の家での今後の活動には、社会から大きな期待が寄せられているといえるでしょう。

専門家の分析（国立三瓶青少年交流の家）

福岡教育大学 山田 洋平

I 本取り組みの効果

4年間の取り組みによって、三瓶青少年交流の家（以下、三瓶交流の家とする）での集団宿泊体験活動（以下、宿泊研修）の効果を検証してきました。三瓶交流の家が有する大きな特色には、集団・人間関係づくりのための活動「SAP」と三瓶山登山の2つが挙げられると考えています。2つの大きな特色を有する三瓶交流の家での宿泊研修の有効性を検討するために、前半の2年間は「SAPの有効性」を、後半の2年間は「三瓶山登山を含む宿泊研修の有効性」を中心に研究を進めました。以下、この2つの時期の取り組みについて説明し、考察していきます。

1 SAPの有効性の検討

取り組み初年度の2021年度と2年目の2022年度は、SAPを含む宿泊研修によって、児童の対人関係能力が育成されるかどうかを検討することをねらいとしました。2021年度は小学校1校、2022年度は小学校3校に協力校となっただき、SAPを含む宿泊研修の有効性について検証をしました。その結果、2年間の研究を通して、①SAPの実施による対人関係能力育成の有効性、②ねらいにあった活動内容の選定の重要性、③活動後の振り返りの重要性が示されました。

まず、①SAPの実施が児童の対人関係能力を育成する可能性については、特に、もともと対人関係能力が相対的に低い児童の能力向上が見られました。加えて、SAPを宿泊研修の1週間前に実施することが有効であることも分かりました。このことから、もともと対人関係能力が低い児童にとっては、宿泊研修の前段階として、活動をするための関係づくりや基本的なかかわり方を学ぶ機会を提供することが、宿泊研修への円滑な参加を促すことにつながると考えられます。昨今の児童を取り巻く環境の変化による、対人関係能力の低下が叫ばれている現状を踏まえると、宿泊研修の活動前にSAPのような学習機会の提供が今後ますます重要になることが示唆されます。

次に②と③ですが、2022年度は特に新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊研修の実施自体が難しく、三瓶交流の家での宿泊期間や内容が制限され、三瓶交流の家での特色を体験する活動が十分に計画できませんでした。また、教員の働き方改革の潮流も相まって、今後も宿泊行事の縮小が予想されます。こうした中で、短い活動期間であっても、参加者を効果的に育成するための方途を検討していくことがこれからの大きな課題と言えます。こうした課題を解決するためには、どのような活動がどのような力を育成するのかを明らかにすることや1つ1つの活動の効果を高めるための工夫が求められます。そこで、三瓶交流の家では、1つ1つの活動の効果を高めるために、宿泊研修の中に振り返りの時間を充実させることを考えました。実際に、2022年度の研究結果を見ると、振り返りを行った学校の児童が他者理解に関する力が高まったことが示されていました。そして、2023年度以降は、活動内容ごとの効果を明らかにすることと振り返りの充実を主なねらいとして取り組みました。

2 三瓶山登山を含む宿泊研修の有効性の検討

(1) 三瓶交流の家アンケートの作成

まず、活動内容ごとの効果を検証するにあたって、三瓶交流の家アンケートの作成を行いました。三瓶交流の家では教育テーマとして「自己を見つめ、他者とつながる人間力の育成」を掲げており、「他者とつながる人間力」、「やり抜く力」、「相互理解」がキーワードとなっています。そこで、2023年度にこれらのキーワードをもとに6観点(自立、友愛、相互理解、責任、勇気、自律・規律)を測定するアンケートを作成しました(表1)。アンケートは、因子分析と呼ばれる統計的手法を用いて、アンケートの信頼性を確認しました。

表1 三瓶交流の家アンケートの内容

教育テーマ	小項目
他者とつながる 人間力	自立(主体的に考えて行動できる力)
	友愛(他者に思いやりのある行動をとれる力)
	勇気(積極的に取り組み、自分の思いや考えを伝える力)
やり抜く力	自律・規律(決められたルールを守ったり、気持ちを押さえたりする力)
	責任(自分の責任を果たす力)
相互理解	相互理解(友だち同士でお互いに助け合う力)

(2) 宿泊研修の効果検証

作成したアンケートを用いて、2023年度と2024年度の宿泊研修の効果を検討したところ、2023年度は、①活動を通して、「自立」と「勇気」が高まること、②SAPを行うことで「自律規律」が維持されること、③振り返りを行うことで「自律規律」や「自立」「友愛」「責任」が高まること示されました。また、2024年度においては、登山を中心とした活動を通して「自立」と「勇気」が高まること示されました。これらのことから、宿泊研修の有効性ととも振り返りの重要性が確かめられました。

2年間の研究により、三瓶山登山においては、特に「自立」と「勇気」の育成が図られることが分かりました。自立は「主体的に考えて行動できる力」、勇気は「積極的に取り組み、自分の思いや考えを伝える力」を表しています。三瓶交流の家の宿泊研修の中心となっている登山は、「山頂などの目的地まで全員が同様に歩いて向かう活動であり、その過程の中で斜面や距離といった自然環境を克服、それに伴う疲労といった困難を克服しなければ成し得ない活動」(長野県山岳総合センター、2019)とされています。つまり、登山という活動は、他の活動よりも、目標を達成するためには必ず自分の力で行動し、課題や困難を克服することが求められます。登山では、班のメンバーを応援したり助けたりすることはできますが、メンバーの代わりに歩くことはできないのです。今回の研究では、三瓶山登山を通して、主体的に考えて行動できる力である「自立」と積極的に取り組み、自分の思いや考えを伝える力である「勇気」が高まりました。これらのことから、登山活動は児童の主体性や積極性を高めるために有効な体験であるということが示されました。

II 本取り組みの成果と今後の期待

本取り組みの成果と今後の期待を3点にまとめて説明します。1つ目は、SAPと三瓶山登山の効果が示されたことです。1・2年目ではSAPの実施が児童の対人関係能力を高めること、3・4年目では三瓶山登山が児童の主体性や積極性を高めることが示されました。これまで野外活動等の教育的効果については、自己成長（濱谷、2019）や自己効力感（瀧・濱谷、2022）への効果の他、社会的スキルや協調性の向上に関する効果（兄井、2009）が示されていました。本取り組みを通して、児童の主体性や積極性についての効果が示されたことは、大きな成果であると考えます。

2点目は、活動の振り返りの設定の重要性についてです。宿泊研修の振り返りは、利用する学校の裁量に任されることが多いのが現状です。ただし、少ない活動で実施効果を高めるためには振り返りを設定することが有効であることが分かりました。特に、もともとの力が相対的に低い児童にとっては、振り返りの機会を設けて活動を価値づけることで、実施効果の安定を図ることができます。今後は活動と振り返りの一体化を図るなど、宿泊研修期間中に振り返りの機会を積極的に設けることが期待されます。

3点目は、三瓶交流の家アンケートの作成です。宿泊研修の成果の検証方法については、これまで利用する学校ごとにねらいが異なることもあり、十分に検証されてこなかったと考えます。本取り組みによって、三瓶交流の家のねらいに即したアンケートを作成したことで、三瓶交流の家での実施効果の検証、および検証結果に基づく実施内容の改善が可能になったと考えます。また、アンケートを続けてデータを蓄積していくことで、活動ごとの実践効果などを検証することもできます。さらに、こうしたデータは宿泊研修の成果を視覚的に示すことができるため、広報活動にも役立てることが期待されます。本取り組みで作成したアンケートは、三瓶交流の家のみならず、野外活動を実践する多くの施設でも活用できるものと考えています。本取り組みで作成したアンケートが多く施設で活用されることを期待しています。

【引用文献】

兄井彰（2009） 縦走登山キャンプが子どもに教育的効果を規定する要因 福岡教育大学紀要第五分冊芸術・保健体育・家政科編、58、51-55.

濱谷弘志（2019） 中学校での学校登山体験が生徒に及ぼす影響—長野県小谷中学校の学校登山を事例として— 北海道教育大学紀要教育科学編、70（1）、371-376.

長野県山岳総合センター（2019） 学校登山における生徒の意識に関する調査結果と考察—登山実施前と登山後の自己肯定意識の比較をもとに—.

<https://www.sangakusogocenter.com/chousa/docs/2019_gakkouchousa.pdf>

（閲覧日：2024年11月21日）

瀧直也・濱谷弘志（2022） 信州での学校登山が高校生に及ぼす影響—大町岳陽高校の全校登山を事例として— 信州大学教育学部研究論集、16、264-271.

施設紹介

【国立大洲青少年交流の家】

国立大洲青少年交流の家は、南予の母なる川「肱川」を中心とした水郷「大洲」が一望できる高台にあり、四季折々の豊かな自然に包まれています。この豊かな自然の中で、当施設は青少年教育振興のための「教育拠点」として、主に全年齢期の青少年及び青少年教育関係者を受け入れ、教育的支援を行うとともに、ボランティア活動や就労体験・交流体験を中心とした教育プログラムの企画実施を行います。また、地域社会のニーズに応え、女性団体、社会福祉団体、企業、ファミリーなど各種団体も受け入れ、野外活動・スポーツ活動・文化活動などの研修活動の支援も行います。

○交流の家キャラクター 「ジッピー兄弟」

なかよし「鶯」の兄妹。

名前は所章の「Z」と英語の「Zippy」（元気のある、きびきびした、活発な）から取っています。



【国立三瓶青少年交流の家】

国立三瓶青少年交流の家は、島根県の中央部に位置する国立公園三瓶山の自然林の一角にあります。季節ごとに様々な植物が見られ、東の原や西の原には牧草が広がり、萌葱色から深緑色まで様々な緑のシャワーを楽しむことができ、目の前の男三瓶を中心にマイナスイオンたっぷりのグリーンシャワーを浴びながら、登山やサイクリングなど様々な自然体験活動が実施できます。そして、「みんなの笑顔のために『勇気ある一歩』を踏み出す青少年を育てる」を達成することを目指しています。

三瓶山では昔から放牧が盛んで、今でも草原が広がっています。さんべそばをはじめ、ご当地グルメがあり、火山活動の影響によって周辺にはたくさんの温泉もあります。

子牛のマスコットキャラクターベえくんとベえこちゃんが皆さんをお待ちしています。

グリーンシャワーを浴びにぜひお越しください。



お わ り に

国立大洲青少年交流の家と国立三瓶青少年交流の家は、「地域の自然を活用した野外教育プログラム～「やり抜く力」及び「自己を見つめ他者につながる人間力」の育成を目指して～」をテーマとしてそれぞれの施設が実践・研究を重ね、今回、「地域の実情を踏まえた体験活動事業」について報告書を作成しました。

国立大洲青少年交流の家は、カヌーをメインプログラムとした体験活動を行うことにより、子供たちの仲間と共に、やり抜く人間力、「やり抜く力」を育成しました。また、カヌーを中心とした事業に取り組み、子供たちへのより望ましい関わり方などを検討しました。

国立三瓶青少年交流の家は、三瓶山登山をメインプログラムとし、あらかじめ目標設定・役割分担を行い、下山後に全体やグループで振り返りや分かち合いを行う過程において、仲間と気づきを伝え合い、学びを促すように工夫し、その効果について検証しました。また、三瓶山登山を集団宿泊活動に位置付け、集団宿泊活動の効果について検証し、小学校団体を対象とした三瓶版モデル型プランを作成しました。

各学校や青少年教育団体等におかれては、この報告書を参考に集団宿泊学習における体験活動やその他の指導場面において応用するなど、地域の自然を活用した野外教育プログラムを実践し、「やり抜く力」及び「自己を見つめ他者につながる人間力」の育成を目指すことを期待しています。

今回の実践研究に当たっては、特に国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所、愛媛県教育委員会、愛媛大学 日野克博 教授、大洲市、大洲市教育委員会、大洲市カヌー協会、島根県教育委員会、大田市教育委員会、福岡教育大学 山田洋平 准教授には多大な御指導をいただきました。また、学校における実践においては、多くの先生方に御協力いただくとともに、生き生きと活動に取り組む子供たちの姿を数多く見ることができました。おかげで課題や目指す方向性が明らかになり、その成果を報告書にまとめることができました。御協力いただいた全ての方に心から御礼申し上げます。

この成果については、愛媛県・島根県をはじめ全国の青少年に広げるとともに、更に実践を深めることとしていますので、今後とも、御指導、御鞭撻を賜りますようお願いいたします。

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立三瓶青少年交流の家
所長 尾原 敏則

地域の実情を踏まえた特色ある体験活動事業（特色化事業）
地域の自然を活用した野外教育プログラムの展開と効果
～「やり抜く力」及び「自己を見つめ他者とつながる人間力」の育成を目指して～
報 告 書

令和7年3月吉日 発行

国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家
〒795-0001 愛媛県大洲市北只 1086 番地
TEL (0893) 24-5175 FAX (0893) 24-2909

国立青少年教育振興機構 国立三瓶青少年交流の家
〒694-0002 島根県大田市山口町山口 1638-12
TEL (0854) 86-0319 FAX (0854) 86-0458

体験の風を[®]
おこそう